

最先端IT・エレクトロニクス総合展

CEATEC[®] JAPAN



実施報告書

Smart Innovation — 明日の暮らしと社会を創る技術力

シーテックジャパン2013
10.1 火 ▶ 10.5 土 幕張メッセ

■主催：CEATEC JAPAN実施協議会

JEITA 一般社団法人電子情報技術産業協会

CIAJ 一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会

CSAJ 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

www.ceatec.com

目次

1. 開催概要	1
2. 主催者メッセージ	2
3. オープニングイベント / 式典	2
4. 展示・会場構成	3
5. 出展傾向	5
6. 特別展示・企画	12
7. アワード	14
8. 出展者一覧	16
9. コンファレンス	18
10. 来場者数・来場者分析	22
11. 広報・宣伝	25
12. CEATEC JAPAN 公式Website	28

1. 開催概要

名 称： CEATEC JAPAN 2013(シーテック ジャパン 2013) (Combined Exhibition of Advanced Technologies)

開催主旨： ○ 通信・情報・映像が融合したデジタルネットワーク時代を反映した、最新の技術・製品・システム・ソフトを一堂に集め、その成果を情報発信する。
○ 各分野ごとに最新成果や最新動向を発信することにより専門性を発揮し、各ユーザの関心・期待・ニーズに応える。
○ 通信・情報・映像分野における日本、アジア最大の情報発信・交流メディアとして、グローバルレベルの最新成果、最新動向、活力を世界に発信する。
○ 関連産業界が一丸となって広く社会に問いかけ、産業の一層の進展と社会貢献を促すとともに、デジタルネットワーク時代における生活文化、経済、社会の発展に貢献する。

会 期： 2013年10月1日(火)～5日(土)午前10時～午後5時
○ 招 待 日：10月1日(火)
○ 公 開 日：10月2日(水)～4日(金)
○ 無料公開日：10月5日(土)
○ ICT Suite / Electronics Suite：10月1日(火)～4日(金)

会 場： 幕張メッセ 千葉市美浜区中瀬2-1

入 場： 全来場者登録入場制
○ 招待日(10月1日)
○ 公開日(10月2日～4日)
・当日登録：入場料 一般1,000円・学生500円
・Web事前登録・招待券当日登録：入場無料
○ 無料公開日(10月5日)

主 催： CEATEC JAPAN 実施協議会
一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)

後 援： ○総務省、外務省、経済産業省(建制順)
○独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人情報通信研究機構(NICT)、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)、独立行政法人中小企業基盤整備機構、独立行政法人国際観光振興機構(日本政府観光局)
○千葉県、千葉市
○日本放送協会、一般社団法人日本民間放送連盟
○一般社団法人日本経済団体連合会、日本商工会議所、東京商工会議所、千葉商工会議所
○アメリカ合衆国大使館商務部、駐日欧州連合代表部、英国大使館貿易・対英投資部、カナダ大使館、フランス大使館企業振興部-ユビフランス(順不同)

協賛団体： ○一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人電気通信協会、一般財団法人インターネット協会、一般社団法人情報通信技術委員会、一般財団法人日本情報経済社会推進協会、一般社団法人IT検証産業協会、一般社団法人コンピュータ教育振興協会
○一般社団法人電波産業会、一般社団法人衛星放送協会、一般社団法人日本ケーブルテレビ連盟、一般社団法人日本CATV技術協会
○全国家電流通協議会、全国電機商業組合連合会、全国電子部品流通連合会、一般社団法人日本コンピュータシステム販売店協会、日本電子機器輸入協会
○一般社団法人日本電機工業会、一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会、一般社団法人日本オーディオ協会、一般社団法人日本医療機器工業会、一般社団法人日本電気計測器工業会、一般社団法人日本電気制御機器工業会、一般社団法人カメラ映像機器工業会、一般社団法人組込みシステム技術協会、一般社団法人日本電子回路工業会
○一般社団法人日本自動車工業会、特定非営利活動法人ITS Japan、一般社団法人日本自動車部品工業会
○電気事業連合会、一般財団法人新エネルギー財団、一般財団法人省エネルギーセンター、一般社団法人日本電気協会、一般社団法人電池工業会、一般社団法人太陽光発電協会、一般社団法人日本風力発電協会、一般社団法人ソーラーシステム振興協会
○一般社団法人住宅生産団体連合会、一般社団法人日本機械工業連合会、一般社団法人日本ロボット工業会、一般社団法人日本冷凍空調工業会
○一般財団法人デジタルコンテンツ協会、一般社団法人日本映像ソフト協会、一般社団法人日本書籍出版協会、一般社団法人日本レコード協会(順不同)

協賛学会： 一般社団法人映像情報メディア学会、公益社団法人応用物理学会、一般社団法人画像電子学会、一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電気学会、一般社団法人電子情報通信学会(順不同)

Prime Media Partner：
EDN Japan、@IT MONOist、EETimes Japan、Engadget、デジタルヘルスOnline、Tech-On!、日経エレクトロニクス(順不同)

グローバルパートナー：
○Consumer Electronics Association(CEA)/International CES(USA)
○Messe Berlin/IFA(Germany)
○Messe München International/electronica(Germany),electronica & Productronica China(China)
○Hanover Fairs/CeBIT(Germany)(順不同)

アジアパートナー：
○China Council for the Promotion of International Trade Electronics & Information Industry Sub-Council (CCPIT ECC)
○China Electronic Chamber of Commerce(CECC)
○China International Software & Information Service Centre(CiSiS)
○The Hong Kong Electronic Industries Association(HKEIA)
○Taiwan External Trade Development Council I(TAITRA)

Asia Electronics Exhibition Cooperate Conference(AEECC※)メンバー

○China Electronic Appliance Corporation(CEAC)
○Hong Kong Trade Development Council I(HKTDCC)
○Korea Electronics Association(KEA)
○Taiwan Electrical and Electronic Manufacturers' Association(TEEMA)

※Asia Electronics Exhibition Cooperate Conference(AEECC)は1997年に組織され、各国・地域で開催している展示会間のPR・広報協力などに関して相互協力関係を構築しています。

運 営： CEATEC JAPAN 運営事務局(一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会)

2. 主催者メッセージ

CEATEC JAPAN 実施協議会は、
2013 年10月1日(火)から10月5 日(土)までの5日間、
幕張メッセ(千葉市美浜区)にて、
最先端IT・エレクトロニクス総合展
『CEATEC JAPAN 2013』(シーテックジャパン)を
開催いたしました。

今回で14 回目を迎えたCEATEC JAPAN 2013では、
「Smart Innovation—明日の暮らしと社会を創る技術力」を
テーマに、IT・エレクトロニクス技術の革新と他分野との
融合によるスマート化で実現する豊かな暮らしと、
安心・安全で利便性の高い社会を、世界に向けて発信しました。
CEATEC JAPANは、時代の変化を確実に捉え、
技術・製品・サービスのイノベーションと
市場の創造・拡大・活性化に貢献する場であり続けるために、
より一層の努力を続けてまいりますので、
今後もぜひご期待ください。

JEITA

一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)
会長 佐々木 則夫



CIAJ

一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)
会長 奥田 隆司



CSAJ

一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会
会長 和田 成史

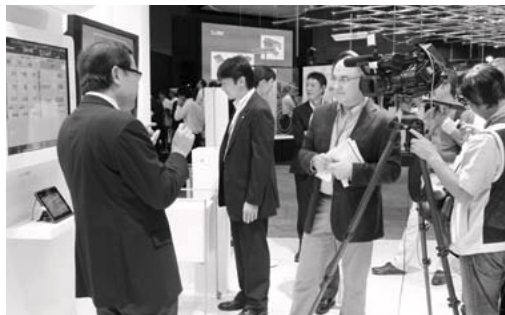


Opening Event

CEATEC JAPAN 2013

3. オープニングイベント／式典

(1)招待日



開催初日の10月1日(火)は招待日として、出展各社より招待された来場者を対象に開催し、快適でゆったりとした環境の中で、出展各社と重要顧客の接点を密にする機会として、また経営幹部同士の方々の情報交流を深める場となった。

特に出展各社の代表者や役員の方々には、自社の取り組みや成果を再確認いただくとともに、他社の出展状況を確認し、今後の経営方針や開発方針へのご参考にしていただけたものと思われる。また、前日開催されたメディアコンベンションに引き続き、会場には国内外の新聞・雑誌・テレビなどの報道関係者も多数詰めかけ、テレビニュースや新聞発表に向け、精力的な取材を行う様子が随所で見受けられた。

会期を通じて742名の方々がVIP登録により来場した。

(2)オープングレセプション



10月1日(火)正午より、出展企業、後援・協賛等関係官公庁・団体、報道関係者を招いて華々しく行われたCEATEC JAPAN 2013オープングレセプションには463名の参加があった。

一般社団法人 電子情報技術産業協会 山本正巳筆頭副会長による主催者代表挨拶の後、赤羽一嘉経済産業副大臣、桜井俊総務省総務審議官から祝辞を頂くとともに、CEATEC AWARD2013大臣賞の表彰が行われた。

引き続き、上述の方々に、日本放送協会より藤沢秀一NHK放送技術研究所所長、一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会 奥田隆司会長、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会より和田成史会長が加わり、CEATEC JAPAN 2013の幕開けを飾るテープカットがとり行われた。

本年は秋にITS世界会議2013と東京モーターショー2013が開催されることから、3イベントの連携を図り、それを象徴する場として、一般社団法人 日本自動車工業会 豊田章男会長とITSJapan 渡邊浩之会長にご登壇いただき、一般社団法人 電子情報技術産業協会 山本正巳筆頭副会長とのフォトセッションを行った。

4. 展示・会場構成

(1) 展示品目の範囲

CEATEC JAPAN (5 Days)

ライフ&ソサエティ ステージ

ユーザ視点での新たな体験を提案する展示を促進。次世代映像技術や、モバイルコミュニケーション、スマートハウス、スマート家電、クラウドサービス、認証技術等、様々な生活シーンをシームレスにつなぎ、人々の生活をより豊かに、より快適にする技術、製品、サービスが紹介された。

・ホームエンターテインメント & 映像ネットワーク

スマートテレビ、デジタルテレビ、モニター、レコーダ/プレーヤ、ホームサーバ、ストレージ、ホームシアターシステム、サラウンドシステム、オーディオ製品、ゲーム・プラットフォーム、放送関連、デジタルサイネージ、デジタルシネマ、業務用映像システム、次世代映像技術、IPTV、ブロードバンド、次世代通信、映像配信、コンテンツ、その他関連製品・サービス

・パーソナルデジタルツール & モバイルネットワーク

スマートフォン、携帯電話、PHS、モバイルPC、タブレット、電子書籍、デジタルスチルカメラ、デジタルビデオカメラ、ポータブルゲーム機、ポータブルデジタルオーディオプレーヤ、電子辞書、無線ブロードバンドサービス、無線通信技術・製品、無線LAN関連技術・製品、パソコン、パソコン周辺機器、その他関連製品・サービス

・スマートネットワーク & ビジネス

クラウドコンピューティング、データセンター(IDC)、仮想化ソリューション、グリッドコンピューティング、サーバ、ストレージ、OS、ミドルウェア、アプリケーション、データベース、クライアント、情報端末、OA 機器、PDA、電話ファクシミリ装置、PBX、局用交換機、伝送・通信装置、ネットワーク機器、テレビ・Web 会議、ソフトフォン、IPv6、情報セキュリティ、その他システム・サービス、ソフトウェア

・スマートハウス & スマートコミュニティ

再生可能エネルギー、新エネルギー関連、家庭用太陽光発電システム、家庭用燃料電池システム、家庭用蓄電池/蓄電システム、給電システム、HEMS、スマートハウス、スマートメータ、電力制御、スマートグリッド関連システム、グリーンIT、エコオフィス、BEMS関連システム、ゼロエミッションビル、スマートタウン、その他関連システム・サービス

・ホームアプライアンス & ライフスタイル

ホームソリューション、ホームセキュリティシステム、スマート家電、ネットワーク家電、生活環境家電、冷暖空調機器、調理家電、ホームランドリー関連、理美容家電、ハイパワー家電、デザイン家電、照明器具、インテリア、住宅設備、家庭向けヘルスケア関連、家庭向け介護関連、生活支援ロボット、コミュニケーションロボット、その他関連製品・サービス

・スマートモビリティ

EV、HEV、PHV、FCV 関連システム、バッテリー、車内ネットワークシステム、エネルギー供給システム、ITS、テレマティクス、交通関連システム・サービス、カーAVC 機器、車載コンピュータ、その他関連製品・サービス

・産業・社会システム & 先端技術

防災・減災関連、セキュリティ技術、医療関連、社会福祉関連、eラーニング・教育関連、行政・金融関連、RFID・トレーサビリティ、物流・流通関連、交通運行管理関連、社会インフラ技術、生産技術、農業・アグリテクノロジー関連、ロボット技術、宇宙科学技術、ナノテクノロジー、バイオメトリクス、バイオテクノロジー、産業技術、科学技術、先端技術、研究発表、その他関連製品・サービス

キーテクノロジー ステージ

世界最先端の電子部品・デバイス展示会として、スマートな社会を実現する電子部品や半導体、それらを組成する材料、安全性を担保する計測技術など、国内外の幅広い分野の産業に向けた提案を発信した。

■半導体・デバイスゾーン

・半導体関連

MOS マイクロ、MOS ロジック、システムLSI、デジタルバイポーラ、MOS メモリ(DRAM、SRAM、フラッシュメモリ)、アナログIC、光IC、センサ、ディスプレイ(シリコンダイオード、整流素子、トランジスタ、サーミスタ、バリスタ、サイリスタ、光電変換素子、その他個別半導体素子)、パワー半導体、ハードウェア設計ソリューション(システムLSI、ASIC/ASSP、MPU/DSP、FPGA/PLD デバイス、EDA)、ソフトウェア設計ソリューション(組込みOS、デバイスドライバ、ファームウェア、ミドルウェア)、MEMS、その他半導体関連

・ディスプレイ・デバイス関連

液晶ディスプレイ(LCD)、プラズマディスプレイ(PDP)、無機/有機EL ディスプレイ(EL)、LED ディスプレイ、LED 素子(照明用、街路灯用、LCD バックライト用、車載用、携帯電話/モバイル機器用、遊技機用、信号機用)、FED ディスプレイ、蛍光表示管(VFD)、タッチパネル、ブラウン管(CRT)、その他ディスプレイデバイス関連

■電子部品ゾーン

・受動部品関連

受動部品(抵抗器、コンデンサ、トランス、コイル、振動子、発振子、フィルタ)、ノイズ対策部品、その他受動部品関連

・機構部品関連

接続部品(コネクタ、スイッチ、リレー)、プリント回路基板、プリント配線板、その他機構部品関連

・機能部品関連

変換部品(音響部品、磁気ヘッド、超小型モータ、センサ)、高周波部品(デジタルチューナ、RF モジュール)、その他機能部品関連

・電源関連

アダプタ/チャージャー、スイッチング電源、その他電源関連

■電池・原材料・装置ゾーン

・電池関連

燃料電池、リチウムイオン電池、ニッケル水素電池、太陽電池セル、モジュール、その他電池関連

・材料・素材関連

金属材料、フェライト、マグネット、その他材料・素材関連

・装置関連

電子計測器、検査・試験装置、製造装置、実装関連機器・システム、実装デバイス・部品、その他装置関連

・社会システム & 先端技術関連

自動車用エレクトロニクス、環境・エネルギー関連技術、ヘルスケア医療関連技術、ナノエレクトロニクス、ナノテクノロジー、バイオメトリクス、バイオテクノロジー、科学技術、先端技術、研究発表、産学、知財、人材、自治体、地域産業、電子技術系書籍・ソフト・サービス、その他技術関連

ICT Suite/Electronics Suite (4 Days)

ビジネストレンドを捉えた企画「テーマプラザ」を実施したほか、ビジネス活動をサポートするサービスや環境を整備・充実させたBtoBゾーンとして展開した。製品のカテゴリーごとにICT Suite/Electronics Suiteに分かれ、それぞれライフ&ソサエティ/キーテクノロジーステージと連動させることで、より効果的に商談をサポートするエリアとなった。

■ICT Suite

ライフ&ソサエティ ステージ出展対象製品

■Electronics Suite

キーテクノロジーステージ出展対象製品

(2) ステージ別出展状況

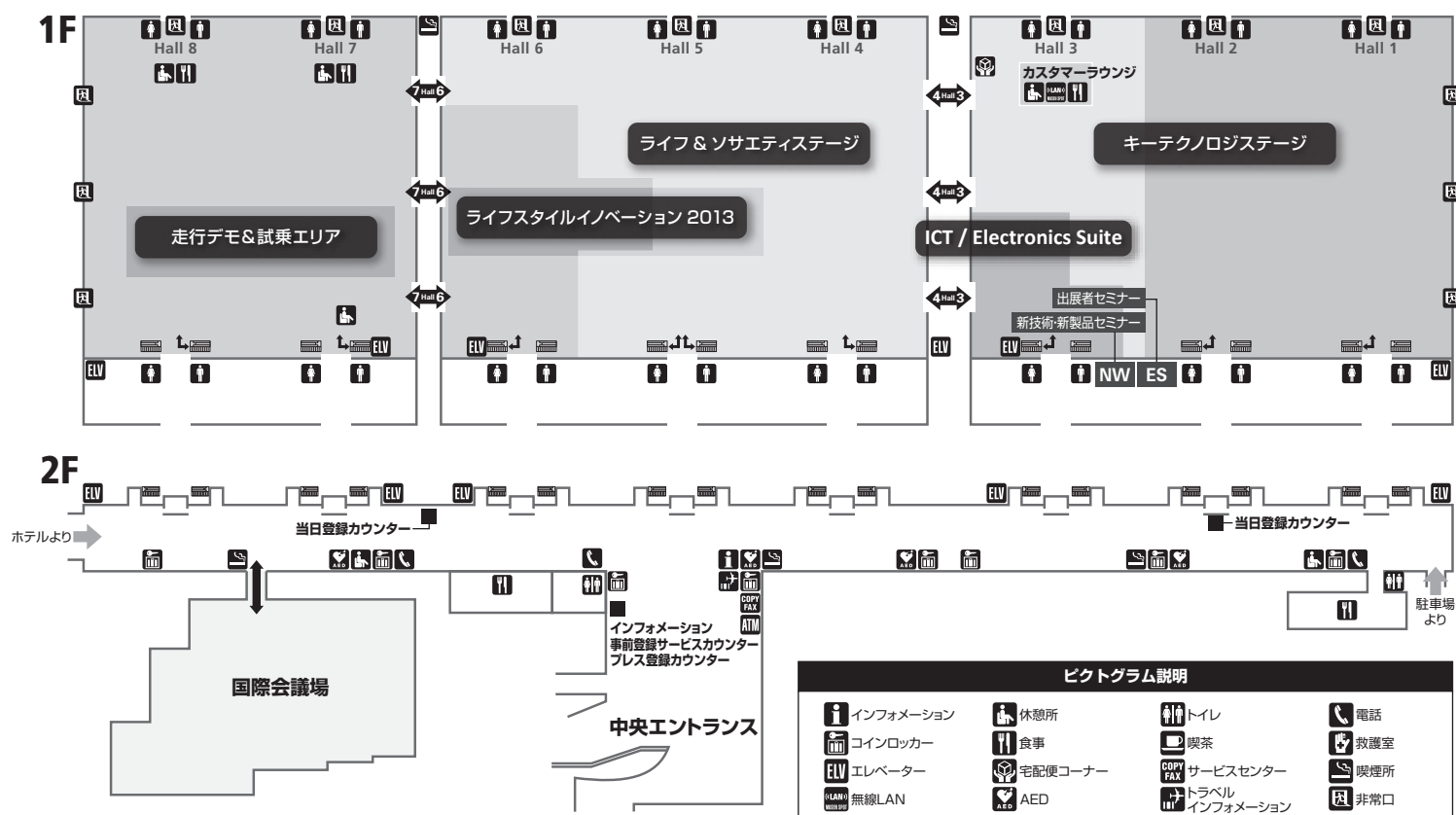
ステージ/ゾーン		出展者数			小間数	参考：2012年実績	
		国内	海外	合計		出展者数	小間数
ライフ & ソサエティ ステージ		122	58	180	832	221	996
キーテクノロジー ステージ	半導体・デバイス	19	43	62	125	41	110
	電子部品	58	30	88	357	83	357
	電池・原材料・装置	34	15	49	107	72	167
ICT Suite		67	5	72	83	64	85
Electronics Suite		25	10	35	32	43	49
Lifestyle Innovation 2013		99	2	101	803	100	524
合 計		424	163	587	2,339	624	2,288

(3) 海外出展者数の内訳

18カ国・地域／163社 ※2012年実績19カ国・地域／161社

アジア地域(6カ国・地域／116社)	台湾47／中国46／韓国14／香港7／マレーシア1／タイ1
ヨーロッパ地域(10カ国・地域／18社)	ドイツ6／オーストリア2／スイス2／フランス2／イギリス1／イタリア1／スウェーデン1／チェコ1／ノルウェー1／ベルギー1
北米地域(1カ国・地域／28社)	アメリカ28
大洋州地域(1カ国・地域／1社)	オーストラリア1

(4) 会場構成



5. 出展傾向

10月1日より幕張メッセにて開催したCEATEC JAPAN 2013は、587社・団体(うち海外:18カ国・地域から163社・団体)が出展し、5日間の会期を終え閉幕した。

今年のCEATEC JAPANでは『Smart Innovation - 明日の暮らしと社会を創る技術力』をテーマに、「自動車」「医療・ヘルスケア」「エネルギー」などの産業と融合した技術革新や、4K・8K高精細テレビ等の次世代映像技術によってもたらされる新しいライフスタイルが数多く提案され、IT・エレクトロニクスの最新動向と、産業の活力と底力が発信された。

また、今年はIT・エレクトロニクス産業と自動車産業との連携がさらに深まった年でもあった。IT・エレクトロニクスとの融合によって現実化されつつある車の自動運転や車の安全・快適性を支えるデバイス、本年秋に開催されるITS 世界会議東京2013、東京モーターショー2013との連携シンポジウム等、IT・エレクトロニクスと車の関連性の深化を示す展示、イベントが多数行われた。

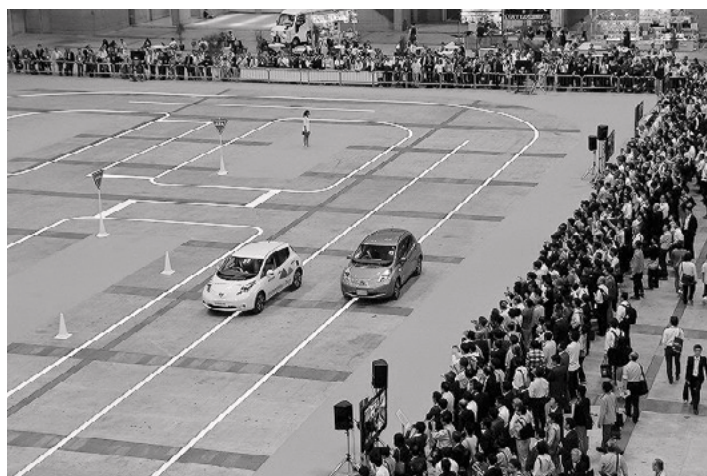
「ライフ&ソサエティステージ」では、4Kテレビを始めとする次世代映像技術や、ウェアラブル端末等の最新モバイルデバイス、超高速・大容量通信への期待が深まる5G(第五世代通信)等の次世代無線通信技術、家とエネルギーと家電をつなぎ制御するHEMSやV2H(Vehicle to Home)、ICTの利活用を促進するクラウドサービス等、人々の生活をより豊かに、より快適にする技術、製品、サービスなどに注目が集まった。



「キーテクノロジーステージ」では、世界の「イノベーション」を支える世界最先端の電子部品・デバイスを紹介するステージとして、自動車の電装化や製品機能をコントロールするセンシングデバイス、非接触による情報伝達を実現するNFC(近接無線通信)技術、スマートフォンやタブレット端末等の小型化やエネルギー効率向上を支えるキーデバイス、医療・福祉機器向け各種デバイスなど、世界最先端の高機能電子部品等が紹介された。



「ライフスタイル イノベーション 2013」では、ホール7、8を使って、走行デモ・試乗エリアとして、トヨタ自動車、本田技研工業がパーソナルモビリティ機器の試乗を、また日産自動車が自動運転のデモを行った。



「ICT Suite/Electronics Suite」では、クラウドコンピューティングプラザやプログラマブル デバイスプラザ等、ビジネストレンドをとらえた「テーマプラザ」が集約され、また、リサーチパークでは、大学研究室、大学発ベンチャー企業、企業や公的機関の研究機関・研究所などが、IT・エレクトロニクスの研究技術を紹介した。

最終日の10月5日の土曜日は、入場料が無料となり、今年もジュニア&キッズ電子工作教室や全日本ロボット相撲大会には多くのヤング・エンジニアが訪れ、行列ができる盛況さだった。

●期待高まる次世代映像技術がCEATEC JAPANに集結

次世代映像技術として昨年から多くの目を惹いていた超高精細の「4K」が、今年はさらに多くの企業より様々なスタイルの「4K」が出展された。

パナソニック株式会社は、展示を4Kに特化。参考出品された「4K有機ELパネル」は、多くの見学者が列を作り、高精細な画質が話題となった。「4Kテレビ」は、動きの速い4Kゲーム、4Kブラウザによる地図の全画面表示やネット上の4K動画の再生など、多様な4Kコンテンツの楽しみ方を提案していた。また、ハンディサイズの「4Kビデオカメラ」を参考出品、業務用の「4K VARICAM」も参考出品した。4K VARICAMは、9月にオランダで開催された放送機器の展示会IBC2013にも出品され、世界の放送関係者の注目を浴びたものである。B2B製品としては、CEATEC AWARD 2013プロダクツ部門グランプリを受賞した4K IPSα液晶パネルを搭載したタブレット「TOUGHPAD 4K」が動態展示されていた。来場者達は、その精細な画面に見入っていた。



この夏に4Kテレビの第2世代製品群を投入した株式会社東芝は、ブースの一角に「4K REGZA Z8Xシリーズ」を多数並べて、その画質をアピールした。「4Kテレビであっても3m離れれば画質の違いは分からない」という声もあるが、東芝のブースは遠距離からもハッキリとした画像が分かり、場内をゆく人々に4Kの威力をアピールしていた。今回は、4Kの新たな方向として40型、50型という、この分野では小型のテレビも参考出品されていた。プロニーズに向けての4Kの新たな使い方を提案している。

ブースには4Kに加えてエネルギー関連の展示もなされていた。太陽光発電システムを筆頭に、エネファームなどの各種エネルギー・ソリューション、そしてHEMS等の技術、製品も出展しておりエネルギー部門も重視する姿勢を見せた。

三菱電機株式会社では、従来のバックライトに代わり、LEDに加えて赤色レーザーを光源とした「赤色レーザー光源搭載、ブルーレイレコーダー内蔵液晶テレビ」が展示された。従来は白色LEDをバックライトに使っていたため、RGB三原色の分離に難があったが、3原色使用となったため色純度が向上した。さらに、R成分としては赤色レーザーを光源とするため色純度の高い赤を得ることができ、色域は同社製品比で131%に拡大している。また、この技術を用いた「65型4K+レーザー」テレビが参考出展されていた。

独自の酸化半導体技術「IGZO」を持つシャープ株式会社は、昨年に引き続きIGZO液晶を採用した様々な製品を出品。4K2Kディスプレイやスマートフォン、タブレット端末など、さらなる拡がりを見せる「IGZO WORLD」を幅広く訴求した。IGZO技術を活用して超狭額縁を実現したフレームレスディスプレイは、モバイル向けの4.9V型、8.8V型に加え、46V型のコンセプトモデルも展示され、来場者の注目を集めた。また、IGZO技術の新しい用途提案として、Qualcommの子会社である米Pixtronixと共同開発した「MEMSディスプレイ」を展示。画素ごとに設置した微小なシャッターでバックライトの光の透過を制御する構造は、従来の液晶ディスプレイに比べ約10倍の光利用効率を可能とする省エネ設計で、高い色再現性や幅広い環境温度に対応するなど、液晶ディスプレイや有機ELとは異なる新たなディスプレイとして紹介された。

また、「AQUOSクアトロプロ」はHD解像度の液晶パネルながら4K相当の高い解像度を実現した新技術で、52型、70型、80型パネルによる高画質画像を紹介、さらに電源オフ時に鏡として使える「ミラーディスプレイ」も、サイネージなどで新たな映像体験を提供する新開発ディスプレイとして注目が高かった。

同社ではこれら映像技術のほか、スマートハウスやロボット家電による生活支援技術、新規事業としてのロボティクスやヘルスケア・医療関連技術など、同社の持つ幅広い技術の応用実績をアピールした。

ソニー株式会社／ソニーマーケティング株式会社は、開放感のあるブースに、4K関連製品・モバイル関連製品を展開。中央には、「56V型4K対応有機ELテレビ」が参考展示され、覗き込む人が多かった。ソニーの最新技術を結集して作り上げたスマートフォン「Xperia Z1」も注目を集めた。

また、民生用の4K収録機材として4Kビデオカメラレコーダー「ハンディカムFDR-AX1」が展示され、こちらも関心を集めていた。

CEATEC JAPANを報道するカメラマンの間で話題になっていたのが、レンズスタイルカメラで、円筒形のレンズ形状がそのままカメラになっているユニークな製品だった。その形状から来る機動性の高さが、プロの関心を惹いていた。



●ICTの利活用が進む、スマートハウス

家電メーカーは省エネ性能や利便性に優れた「スマート家電」の展示で、また、自動車メーカーは、「スマートハウス」の提案でその存在感を示した。

三菱電機株式会社は、「HEMS」（家庭用エネルギー管理システム）を実体験できる端末を紹介した。同社のHEMSは、エアコンやテレビ、冷蔵庫など7製品と接続することができる。展示コーナーでは、タブレット画面に家族の帰宅時間を入力すると、家電の稼働時間が自動設定されたり、効率的に節電モードに切り替えたりする機能の体験デモが行われた。

株式会社東芝は、冷蔵庫や洗濯機に対応する新型ITシステム「家電コンシェルジュ」を初めて一般公開した。ブースには小型カメラを庫内に置いた冷蔵庫などが展示され、利用者が外出先で「自宅にタマゴが残り何個あったのか」が思い出せない時に、スマートフォンを通じていつでも庫内を見られる「家電コンシェルジュ」の仕組みがわかる提案が行われた。

シャープ株式会社は、「スマート・スイートホーム」と題し、ソーラー・蓄電池・HEMSなどのスマートハウスに「こころ」のファクターを加えた新たなホームマネージメントシステムを紹介。ロボット家電「COCOROBO」をはじめとする人工知能「ココロエンジン」を搭載した様々な製品が連携しあうことで家電と人がフレンドリーな関係になり、身の回りの家電が人をアシストする頼れる存在（ともだち家電）となることを提案した。



特別展示「Lifestyle Innovation 2013」Smart Mobilityでは、自動車メーカーを中心にスマートハウスの提案がなされた。

本田技研工業株式会社は、2015年を目処にHEMS市場への本格参入を進めている。家庭用ガスによるコジェネレーションユニットがその中心的存在で、これにはエンジン開発の分野で培われた同社ならではの技術が投入されている。ブースでは、エネルギーを家庭で創り、消費するホンダスマートホームシステム（HSHS）のエネルギーマネジメント技術において中核をなす「家庭用ガスエンジンコジェネレーションユニット」を、やかに見立てて分かりやすく紹介した。

トヨタホーム株式会社のスマートハウスは、太陽光発電、蓄電、HEMSでのコントロールという三大機能に加えて、クルマのエネルギー管理とオンライン管理サービスを取入れているのが特徴。

EVやPHVを走らせるための電力をHEMSから賄うことで、移動手段も含めた省エネが可能になる。その電力は、太陽光発電や値段の安い深夜電力を蓄電した、リチウム蓄電池から供給できる。さらに、電力使用状況はオンラインを通じて「トヨタスマートセンター」で分析され、省エネアドバイスを毎日発信して効率的な省エネをガイドするシステムが示された。

●環境を守り、生活を豊かにする

インフラを作り、その上で多彩なサービスを提供する企業も、活発な提案を行っていた。いずれの企業の根底にも、様々な形で環境を守り、生活を豊かにするという考えが流れている。

積極的にクラウドビジネスも推進する日本電気株式会社は、「クラウド型EV・PHV充電インフラサービス」を提唱していた。現在、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)用の充電ステーションは、無償で利用できることも多い。しかし、今後、充電ステーションの拡大のためには、有償利用にすることで、設置事業者を広く求めていくことになる。

また、充電サービスを拡充することで、EV・PHV利用者を増やしていくことが求められている。

同社は、課金サービスなどの多彩なサービスを実現するクラウドサービスを提供している。また、充電器をクラウドに接続するために、充電器と分離した充電コントローラを開発した。充電器の製造事業者の中には、充電器の設計製造は得意であっても、ネットワークやクラウドサービスといった分野には経験が少ない企業が目立ったという。このような企業が充電器の開発製造に集中し、クラウドでのサービス開発の負担を減らすことは、今回発表のシステムの狙いの一つであるという。

充電コントローラはさまざまな充電器を制御するとともに、クラウドに接続することで多彩なサービスを実現できる。

同社は、この開発でCETAEC AWARD 2013ネットワーク&サービス部門でグランプリを受賞した。



富士通株式会社は、指先で直感的に操作できる次世代インターフェース「FingerLink」を展示した。これはPCにつなげて使う周辺機器の一種。スキャナを使わずに指先だけで紙文書を電子化して取り込んだり、任意の場所にファイルを張り付けることができる。来年度中の製品化を予定しているという。また、同社が開発した「眠気検知センサ」と「睡眠センサ」も展示された。クリップ型の脈拍センサを耳に装着し、無線モジュール(bluetooth)でスマートフォンにデータを送って解析することで、ドライバーの眠気を監視できる技術だ。自動車用途での採用を目指していると表明された。

IVI(In-Vehicle Infotainment)という形で自動車内での情報提示を積極的に演示したのがパイオニア株式会社だ。AR(Augmented Reality: 拡張現実)技術により、前方の空間に種々の情報が呈示され、運転を支援する。ブースでは、セットされたシミュレータを試そうと、毎日長い列ができていた。

他に、同社が市販化しているAR用ヘッドアップ・ディスプレイ「AR HUD」も複数台展示され、こちらもフロントシールド上方に映るナビゲーション情報を体感しようという多くの来場者の列ができていた。投写技術に関わるものとしては、「R&D シースループロジェクション」が出展された。現在、同社が研究中のディスプレイ方式で、投写面の背景が透けて見えるものだ。特殊な透明スクリーンにプロジェクタから投写すると、背景が見えたまま投写映像も見える。サイネージなどへの応用が期待される。

有機EL関連では、パイオニア株式会社と三菱化学が共同開発した「発光層塗布型有機EL照明モジュール」のサンプル品が展示された。従来、有機ELの発光層は、真空装置内で原料を蒸発させ、気化した原料を基板上に成長させる蒸着成膜方式が採用されている。



●期待が高まる「5G」とウェアラブル情報端末

すべてのデバイスが互いに通信でつながる時代となると、情報交換を支える通信インフラが現在以上に重要になってくる。2020年までに数十億個のデバイスがM2M(マシン-to-マシン)でつながると予想されており、移動体通信も現在以上の大容量化が求められる。株式会社NTTドコモは、現在展開中のLTEの次に来る通信方式「5G」の威力をシミュレーションによって示した。

5Gは、現在の方式より100倍以上の高速化が図られ、静止～歩行程度の移動速度では10Gbpsの通信速度が実現できるという。現在の方式のように、一つの基地局が一つのセルを作り、その覆域下にある携帯機と通信する、という一対一の関係ではなくなる。5Gでは多数の基地局が小さなセルを作り、覆域は交差する。携帯機は、最適なセルを選んで接続することになる。

帯域幅として1000MHzを確保して、このような方式で通信した場合の通信速度の状況が大画面に表示されていた。現行方式の約100倍の速度が、建物の影といった高速通信が難しい箇所でも実現されている様子が示されていた。この「次世代移動通信(5G)」には、CEATEC AWARD 2013総務大臣賞が授けられた。

株式会社NTTドコモは、参考出品のウェアラブル情報端末「インテリジェントグラス」の可能性を提案した。インテリジェントグラスはメガネ型の情報端末。カメラ、ディスプレイなどの機能を搭載し、視覚から入った情報をもとにインタラクティブな情報サービスを実現する。ウェアラブル端末は、4つの提案がされた。一つ目は、「見るだけインフォ」。メガネを向けただけでクラウドから情報を引き出すことができる。二つ目は「手ぶらでムービー」、移動中でも、手に持たなくても長時間、動画を楽しむことができる。3つ目は身の回りのものや空間をユーザーインタフェースできる「なんでもインタフェース」。四つ目は、「空間インタフェース」、インテリジェントグラスで見ている視界が、そのままユーザーインタフェースになってしまう。



●存在感を高める電子部品

日本のIT・エレクトロニクス産業を支えるのは、優秀かつ強力な部品産業である。独創的であり、さらには高い生産性を併せ持つ部品産業は、今年もその力を存分に見せていた。

昨年、自動車用コックピットのコンセプトモデルを出展したアルプス電気株式会社は、今年はより一層進化させたコックピットを出展した。ドライバーの健康状態等を判断し、視線移動から行動(やりたい事)を予測するという未来的な機能を組み込んだものを実働させた。乗車から運転、降車まで一連のシーケンスの中での電子的な支援をデモした。

また、コックピットに装備されたシフトレバー(変速レバー)も従来の機械式ではなく、人工力覚提示によりシフト感覚を生み出すもので、シフト段数やノッチ位置をソフトウェアで自由に変更することができる。操作に柔軟性を持たせると共に、大幅な小型化を実現した。同社は、これまでに個別の部品としてRF型呼吸センサなどを開発してきたが、今回は応用例を自ら構築したことになる。また、今回のデモでは、視線検出や行動予測は、すべて自社製のソフトで動作しており、ソフトウェアの部品も視野に入っているようであった。

エネルギー関連では、「コアレス電流センサ」(技術展示)が目を引きいた。一般に電流センサは、電流値を測定する電線の周りにコアを置き、そこに誘導される磁束から電流量を測定する。新しいセンサは、電線横に設置するだけでよく、省スペース性に優れている。電流センサは体積、重量共に従来品の三分の一であり、組込機器の小型化にも貢献できる。



ミツミ電機株式会社は、同社が世界シェアトップのOIS(光学式手ぶれ補正)機構付きAFアクチュエータを展示の前面に置いていた。OISは、レンズを小型のコイル等でシフトさせ手ぶれを補正するが、高い精度が要求される。加えて、特に最近のスマートフォン用のアクチュエータは非常に小さな部品であり、製造に高い技術が要求される。

自動車向けでは、同社が開発した二軸MEMSミラーによる「次世代レーザープロジェクションソリューション」と「スマートアンテナ」そして「USB向け出力電圧補正2.5A DC-DCコンバータ」が出展された。

スマートアンテナは、地デジ、GPS、LTE送受信、AM/FM等を一つのアンテナにまとめ車載Ethernetを通じて信号出力を行うものだ。これまで、複数本のケーブルが必要であったアンテナ線を一本化できる。

スマートフォン・タブレット向けには、高精度の電池残量検出ICも出展された。これまで誤差を見込んで残量値に余裕を持たせており、それが電池の過大な容量につながっていた。

太陽誘電株式会社も自動車産業向けの部品製造に大きく舵を切ったことをアピールしていた。同社は「高信頼性」と「最適価格」の両立をうたい、自動車、産業、医療分野への部品供給を開始した。

各分野の基準に合格した製品群を持ち、例えば自動車分野であればAEC-Q200に適合している。すでに2000アイテム以上が高信頼性分野向けに用意されている。この他にゴルフカートやフォークリフトをターゲットとした「1kW高効率充電器」も自動車関連装置として出展されていた。

光メディアの分野では、「8層256GBBytesブルーレイディスク」がプロトタイプとして出展された。コールドデータと呼ばれるアクセスの少ない情報を光ディスクに収容することで、記憶システムの運用コストを大幅に減らせることを示していた。



TDK株式会社は、磁性技術を中心に車載部品、情報機器、エネルギー関連機器などの電子部品開発、生産を進めている。特にハードディスク用ヘッドでは、世界市場にヘッド供給を行う先端企業であり、その最新磁気ヘッド技術は重要視されている。

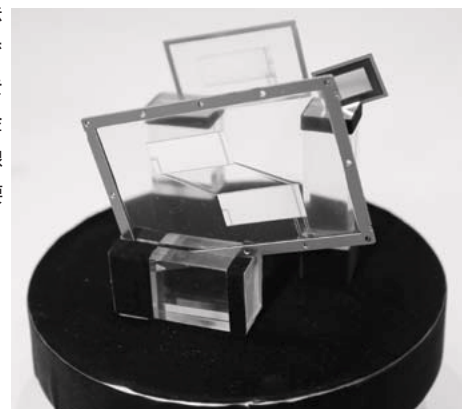
今年も展示された熱アシスト記録ヘッドは、ヘッドに装着した半導体レーザーから供給されるエネルギーを、数十nm(ナノメートル)の範囲のみに伝わる近接場光として取り出し、書き込み領域を瞬時に加熱し、ハードディスク(HDD)の記録密度を現在の10倍に高めると期待されている技術だ。毎分1万回転のサーバー向けHDD(米国シーゲート社提供)による記録再生デモで実用化に向けたアピールをした。その技術により同社は、CEATEC AWARDの「キーテクノロジー部門 グランプリ」を受賞した。

EVやHEVに欠かせない部品であるDC-DCコンバータは、第5世代品が出展された。出力1.45kWの第5世代品は、直前の第4.7世代品に比べて容積あたりの出力が2W/ccと倍増している。コンバータの大幅な小型化により、スペースに余裕がない小型乗用車への搭載も可能となった。この他に、EV/PHV向け充電技術やリチウムイオン電池なども展示され、自動車の広い範囲に同社の技術が適用できることをアピールしていた。

CEATEC AWARD 2013経済産業大臣賞を「ピエゾフィルムスピーカー スマートソニック® サウンド」で受賞した京セラ株式会社は、このスピーカーデモをブース入り口で行っていた。樹脂フィルムにピエゾ素子を乗せた構造のスピーカーは、支持部を入れても厚さ1mmと極めて薄い。スピーカーの薄さと共に良好な音響特性は、来場者を驚かせるものであった。

車載関連部品としては、セラミックヒーターやペルチェ素子・ピエゾ素子そしてセラミック基板などが展示され、セラミック技術を背景に幅広く製品が伸びていることを示した。異色の製品としては、京セラオプテック株式会社のレンズ製品群がある。

京セラオプテックは、スキャナ用レンズの世界トップシェア企業で、スキャナその他バーコードリーダー用レンズなども生産している。なかでも赤外線カメラ・赤外線センサ用レンズは、遠赤外線(熱線)のセンシングで使われている。金属材料を含んだレンズは、独特の金属光沢を発している。熱線検知や監視の分野で需要が伸びているという。



自動車用半導体製品で知られるローム株式会社は、エネルギー分野への取り組みとして、京都大学、アクアフェアリー株式会社と共同開発している固体水素源型燃料電池を出展した。今年のモデルは、固体水素源が、ガスコンロのカートリッジ状の缶に収められており、取り扱いが安全かつ非常に楽になっていた。

固体水素源は、水と接触すると水素を発生し、使用後は消石灰(カルシウム化合物)となるため環境負荷が少ない。今年は、ハイブリッド高出力型、長時間使用型、小型の3種類が出展されていた。ハイブリッド高出力型は、実証実験への投入を間近に控えている。同社は、この燃料電池技術でCEATEC AWARD 2013コアテクノロジー部門グランプリを受賞した。パワー半導体では、Super Junction MOSFET (SJ-MOSFET)とIGBT(絶縁ゲート型バイポーラトランジスタ)の利点を組み合わせた「Hybrid MOS」が発表された。動作周波数の向上や導通損失の低減によりインバータの効率を高めることができる。従来のIGBTやSJ-MOSFETでは十分な対応ができなかった分野での利用が見込まれ、熱として捨てられる電力が大幅に減少することが期待できる。



近年のCEATEC JAPANで無線モジュールの紹介に力を入れてきた株式会社村田製作所は、今年は「車載用コネクティビティモジュール」に進化させていた。車室内でのWiFi、Bluetoothの利用は、スマートフォン・タブレットによるナビゲーションばかりか、IVIのための情報通路としても注目されている。手軽な利用を促進するためにも無線化は重要となる。たとえば、デジタルデバイスで表示している動画を無線で他の機器に転送する「Miracast」がある。これを車室内で実現する「車載用WiFi・Bluetoothコネクティビティモジュール Miracastソリューション」が実演されていた。Miracastは今後不可欠な機能となってゆくだろう。

オートモーティブのコーナーには、「デジタル出力加速度センサ」や「e-bike用DC-DCコンバータ」が見られた。パートナー企業と共にユニークな展示をしていたのがライフスタイルのコーナーにあった「表面実装型超音波センサ」だ。縦横5.2mm、厚さ1.2mmの超小型デバイスが40kHzの超音波を発生する。また、このデバイスは同周波数の超音波を受信するセンサとしても利用できる。ノルウェーのElliptic Laboratoriesとの協業で開発されたジェスチャ認識は、超音波の変化を用いてデバイス前で手を振った様子や指を回す様子を認識している。超音波の反射を用いたこの方式は、場所を選ばずにジェスチャを認識できる。



オムロン株式会社は、自社で開発した表情センシング技術「OKAO Vision」を用いて人の顔の7つの表情をリアルタイムで推定するデモを行った。この表情センシング技術「OKAO Vision」をベースに、カメラモジュールを一体化した組み込み型の画像センシングコンボ「HVC(Human Vision Components)」を開発し、標準タイプを12月から発売する。顔の表情から、人が快適に感じているかどうかを類推する。エアコンや照明器具、自動販売機、自動車などに搭載し、製品の温度や明るさなどの最適化の指標にするという。

株式会社タムラ製作所は、テーマを「オンリーワンで暮らしを支える」とし、各事業部、グループ会社の製品を通じて紹介した。電子部品事業本部が出展したリアクタ・コイル(PVリアクタ)は、家庭用パワーコンディショナーに最適な標準レンジを設定したもの。新製品として、アモルファス圧粉磁心による低損失、高飽和磁束の圧粉磁心を用いたELDシリーズと従来のケース入り圧粉コアから、小型化、低DCR化が可能な樹脂コーティングタイプの圧粉コアをラインナップした。会場では、用途に応じ3種類の圧粉磁心を展示した。コアテクノロジー本部は、次世代パワー半導体材料として注目される、世界初の直径4インチの酸化ガリウム(Ga2O3)単結晶ウェハLED(GaN on GaO LED)を展示した。

ニチコン株式会社はTPP参加に備え、農業の大規模化と電動化によるきめ細かい制御が可能な「スマートアグリネットワークシステム」を展示した。太陽光や風力、小水力など農村地域の再生可能エネルギーにより発電した電気を蓄電し、EVに急速充電する農業充電ステーションとEV、可搬式給電装置で構成される。今年の末から宮城県岩沼市で実証実験を開始し、平成30年度以降の量産・商用化をめざすという。

タイコ エレクトロニクス ジャパン(TE)は、今年5月に最先端のコネクタなどの電子部品を開発から生産まで一貫して行うことのできる次世代ファクトリー静岡県掛川工場を立ち上げた。展示ブースのメインステージでは掛川工場の立ち上げで新たなステージに歩き出した、新たな未来へジャンプすることをイメージして、地球の重力の6分の1を体験できるMoon Walkerをアトラクションとして展開した。

このように、部品各社は新分野の開拓を精力的に進めている。今回展示された部品が、数年後のセットに使われることを思うと、豊かな部品があつてこそセットが開発できることを改めて実感すると同時に、その底力を示したCEATEC JAPANであった。



●身近になった、ヘルスケアソリューション

世界的に長寿化が進み、健康支援・医療(社会貢献)への関心の高まりは目前に迫り、早急に解決すべき問題となっており、ヘルスケア分野への期待がより身近になった。

オムロンヘルスケア株式会社は、血圧計、歩行計といった健康管理器具に加えて、睡眠計、ねむり時間計などの新分野商品が展示された。多くの装置は、何らかの形でネットワークへの対応をしており、計測結果整理の省力化が図られている。同社ブースの正面では、オムロン株式会社が開発した「OKAO Vision」による「見た目年齢推定」が実演されていた。複数の人の見た目年齢を同時に推定でき、カメラ前の専用の通路を歩く人々を連続的に推定した。

シャープ株式会社は、シートに座って3分で血圧、脈拍、体重などの総合的な健康情報を計測しクラウドに保管・管理でき、遠隔地にいる医師にリアルタイム診断までしてもらえる、クラウド型健康診断支援システム「ヘルスケアサポートチェア」が紹介された。

また同社では、空気中の微生物(カビ菌、細菌)を約10分で検出する微生物センサも展示した。同センサは、計測する領域の空気を吸引した後、「独自手法を加えた蛍光検出法」によって検出対象の微生物を検出することができる。

株式会社村田製作所は、わずらわしい検査器具を装着せずに、生体情報を測定することに貢献するMEMS加速度センサなど、介護・医療をサポートし、ヘルスケアを身近にする技術を紹介した。

インテル株式会社は、コンティニユ規格対応の健康機器で測定した健康データを、パソコンで容易に記録・管理できるアプリケーションを3種類展示した。個人向けの健康管理アプリケーションで、Project Woodbridgeと呼ばれているもの。インテルの日本法人が開発を進めているという。トップ画面は、ブルーバックにタイル状の四角形が並んでおり、そこに体重や血圧、心拍数などのバイタルデータが表示される。

ローム株式会社は、糖尿病や感染症など検査ができる微量血液検査システム「バナリスト」のほか、半導体レーザーを用いた非接触の呼吸センシング技術を紹介した。睡眠時無呼吸症候群や運転者の見守りシステムなどの用途を想定している。同社が開発中の波長822nmの半導体レーザーを用いる。同レーザーを人の胸部付近に照射し、反射波を640×480画素の赤外線カメラで撮影する。レーザーの照射位置から被写体までの距離が変化すると、赤外線カメラで撮影した輝度ピークの水平位置が変わる。この原理を利用して呼吸をセンシングする技術である。

日本電気株式会社は、世界初となる個人識別用の「ポータブル型DNA解析装置」を参考展示した。キャリアケースに載せて持ち運びできるため、対象現場ですぐにDNA照合を行える。照合時間は最短で25分と短時間で識別できる。同製品は、CEATEC AWARD 2013 プロダクト部門 準グランプリならびに米国メディア・パネリノイノベーションアワード2013デジタルヘルス部門賞を受賞した。



●最先端技術を支える計測機器

種々の測定ソリューションで知られるローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社は、今回は放送用信号発生器を中心にした展示を行っていた。4Kへの対応は、4本のHDMIに4Kx2K信号を乗せる「Atomix 4K2Kビデオ・ボード」を出展し、4:2:2信号にまで対応した信号出力をデモしていた。4:2:2信号は、一般には素材伝送などコンテンツ制作側で使われる信号形式であり、放送時は4:2:0となる。このボードは両者に対応し、制作側、消費者側双方の機材のために信号を発生させる。

アンリツ株式会社は、環境や医療、M2Mなど、安心・安全で快適な社会を支えるインフラである無線通信技術の実現に向けた、スマートメーターやHEMS/BEMS、Wi-SUN無線、ECHONET Lite機器の評価・フィールドでの妨害波探索などの各種計測ソリューションを展示した。さらに、IPネットワーク、クラウドサービスの効率的な運用、通信品質向上をサポートする高精度帯域制御装置、アナログ回線のIP化を可能とするソリューションなども出展。快適なICT社会の実現を支える最先端の各種ソリューションを提案した。



●スマート化する自動車

CEATEC JAPANの会場に自動車が見られるようになって久しい。今や、自動車とIT・エレクトロニクスは不可分の関係にある。エンジンやブレーキの制御といった走行制御部分から、IVI(In-Vehicle Infotainment)まで、種々のレベルで電子装置は使われている。そして、電子装置の進化があってこそ実現できた機能も増えており、まさに二人三脚での発展を遂げている。

トヨタ自動車株式会社は、ブースでの出展の他、ホール7・8を利用した走行展示場でパーソナル・モビリティ用パートナーロボット「Winglet」の試乗を行った。敢えて車輪径を小さくして立ち位置を低くしたことで、他のパーソナルモビリティ装置とは異なる安定感を利用者にもたらしていた。その一方で、俊敏な動作も可能で、試乗した人々は驚きと共に笑顔を見せていた。

ブースでは、ビッグデータを基に加工した交通情報や統計データなどを提供する自治体や企業向けサービス「ビッグデータ交通情報サービス」とスマートフォン向けテレマティックサービス 新「smart G-BOOK」の2つの交通情報サービスを展示紹介した。



CEATEC JAPAN初出展の本田技研工業株式会社は、走行デモスペースにおいて、新たなパーソナルモビリティを提案する「UNI-CUB」の試乗会も行われていた。玉乗りを連想させるUNI-CUBであるが、バランス制御はそれ自身が行うため利用者は身を委ねるだけで良い。最初は緊張した様子で試乗していた人々も、すぐに表情がほぐれていた。試乗エリアに同社が設置したホワイトボードには、試乗の興奮冷めやらぬ人々からの熱いメッセージが多数書き込まれていた。

こちらもCEATEC JAPAN初出展となるマツダ株式会社は、安全機能に焦点を当てた展示を行った。ミリ波レーダー、準ミリ波レーダー、赤外線、可視光の4種のセンサを組み合わせて安全を確保する「i-ACTIVENSENSE」のパネルには、レーダーなどのセンサも展示され、小さな搭載機器で大きな効果が期待できる事が伝えられていた。独自のHMIコンセプト「Heads-Up Cockpit」に基づく新世代HMIは、実車(カットモデル)に装着してのデモとなった。

日産自動車株式会社は、ホール8の走向デモエリアで、人が運転する有人運転自動車と自動運転自動車を同時に走らせ、交差点や駐車車両に遭遇した場合に、自動運転自動車がどのように反応するか、デモンストレーションを実施した。ホール内に一般道路を想定して、45m×80mのスペースで信号なし交差点を含む2車線の周回コースの特設コースを設置。自動車の人工知能にスポットをあてた自動運転技術のデモが行われた。

実演走向デモで使われる車両には、日産の電気自動車「リーフ」をベースに市街地走行を目的とする自動運転技術「Nissan Autonomous Drive」を搭載している。街中や郊外など一般道路でのドアtoドアの自動走行を目的としており、最も高い知能が求められる。5つのレーザースキャナー、5つのカメラ（アラウンド・ビュー・モニターカメラ）を装備し、車両周辺360度を画像認識して3Dマップデータと照合しながら、道路標識や信号、他の車などの潜在的なリスクを常に監視している。

デモでは、有人運転自動車と自動運転自動車をコース上で同時に走らせて、信号機のない交差点で遭遇した場合、有人運転自動車が交差点を通過するのを待って、自動運転自動車が交差点を通過する様子を見ることができる。また、路肩に駐車している自動車がいった場合、前方に自動車がいないことを判断し、道路脇に駐車している車両を安全に追い越すといったデモも実施された。

なお、デモされた「自動運転技術」は、米国メディアパネルイノベーションアワード・グランプリを受賞した。



●進化を続けるカーナビ

スマートフォンの隆盛に対するカーナビからの答えは、クラリオン株式会社ブースで見ることができた。スマートフォンのナビ機能をそのまま車内のディスプレイに表示する方向への進化と、クラウドの支援を受けつつスマートフォンを活用しつつもカーナビを進化させる2つの道筋が示された。

同社は、スマートフォンを活用してカーナビと接続する「Smart Access」技術を開発しており、これを核に各種サービスを展開する。スマートフォンを通じて、同社が用意したアプリをダウンロードしカーナビ上で実行する。

また、今回参考出品された「自然対話型音声認識」は、カーナビとの自然な対話により検索を実現する。専用アプリを通じて音声はクラウドに送られ、そちらで意味解析がなされ、さらにそこから検索エンジンに情報が送られ必要な検索を行う。

JEITA/スマート・ドライブ・テクノロジーのブースでも、カーナビを開発、製造する各社が新たなナビ機をデモしていた。各社にスマートフォンの扱い方には違いがあるが、接続して活用する、という面では共通したものがある。操作性やOSの安定性ではカーナビに一日の長どころか長年の蓄積があることから、効率的な処理の振り分けがなされることになりそうだ。

インテル株式会社は、同社が提唱する車載情報システム向けOS、Tizen IVIをベースにした実際のサービスが紹介された。ネットに接続することで、自動車も多様な情報やサービスが利用できるもので、トヨタ自動車やNTTデータなどの各社が対応アプリを出展していた。PCのノウハウを生かして、車載情報市場のデファクトスタンダードの構築に強い意欲を示した。



●日本の最先端を提示した2つのアワード

CEATEC JAPAN 2013では、本年の開催テーマである『Smart Innovation -明日の暮らしと社会を創る技術力』のもとに『CEATEC AWARD 2013』を実施し、出展された展示品のなかから、特に優れたイノベーション力を発揮した技術・製品・サービス・システム等を表彰した。総務大臣賞と経済産業大臣賞が設けられ10月1日に表彰式が行われた。

【総務大臣賞】では、株式会社NTTドコモの「次世代移动通信(5G)」、【経済産業大臣賞】では、京セラ株式会社の「ピエゾフィルムスピーカー スマートソニック® サウンド」が受賞した。

【プロダクツ部門】グランプリは、パナソニック株式会社の「世界初20型4K IPSα液晶パネル搭載4Kタブレット「TOUGH PAD 4K」」、【ネットワーク&サービス部門】では、日本電気株式会社の「クラウド型EV・PHV充電インフラサービス」、【キーテクノロジー部門】では、TDK株式会社の「熱アシスト記録用ヘッド」、【コアテクノロジー部門】では、ローム株式会社の「固体水素源型燃料電池システム」がそれぞれ部門グランプリを受賞した。

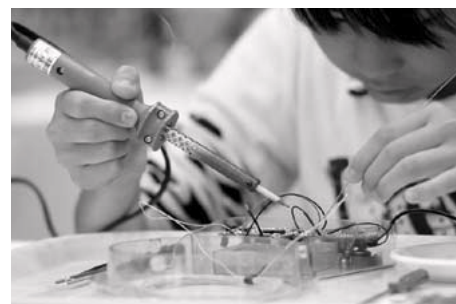
【審査員特別賞】は、慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 桂研究室「温熱覚通信システム」が受賞した。

一方、米国からIT・家電関係のジャーナリストが来日し、CEATEC JAPAN 2013に出展された技術、製品、サービスを出展会場において徹底取材を行い、出展社の中から優れたものを表彰する米国メディアパネル イノベーション アワードが実施された。本アワードでは、新設されたインダストリアル・デザイン部門を加えて、10部門のアワード受賞者の中から選ばれるグランプリには、日産自動車株式会社の「自動運転技術」が選ばれた。

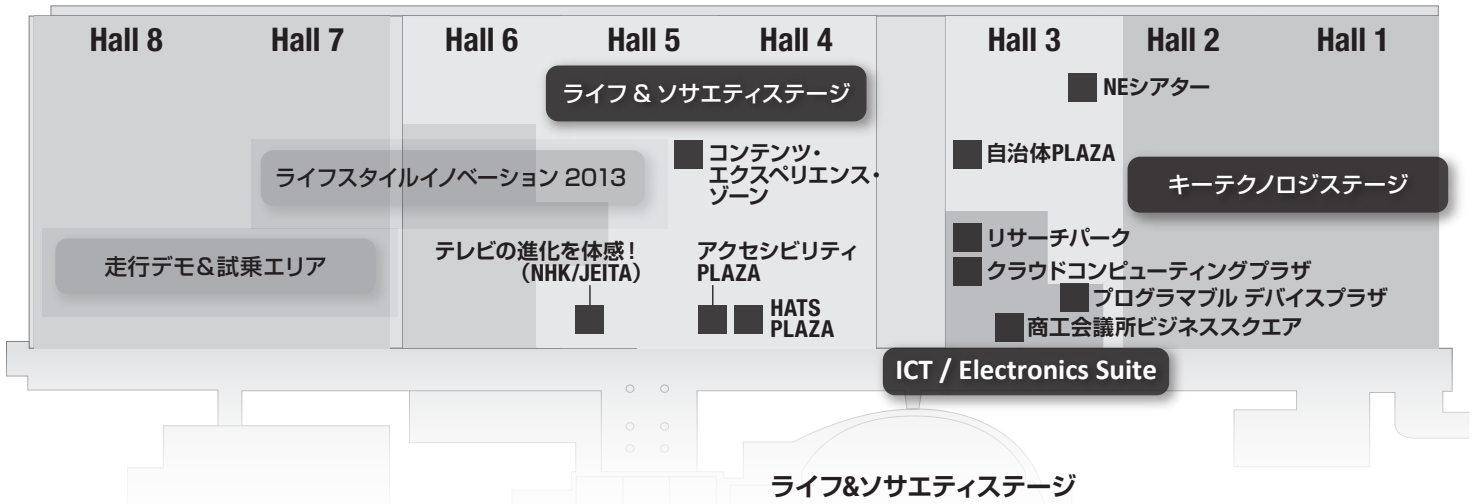
●世界市場を先導せんとする日本の技術の意欲と決意を感じさせたCEATEC JAPAN

初日のオープニングレセプションで、経済産業省の赤羽副大臣は壇上で「実体経済がよくなるかどうか、本当に強い、日本経済を再生することができるかどうかは、まさにこれからが正念場。三本目の矢の成長戦略がうまくいくかどうかは、まさに、ITエレクトロニクス産業のみなさんの活躍が不可欠である」と言い切った。

今年のCEATEC JAPANは、赤羽副大臣の言葉を引き受けるべく、日本の技術の急先鋒が名乗りを上げたようでもあった。展示の派手さや総花的な演出は少ないが、具体的にこの数年で世界の市場を先導する役割を担わんとする意欲と決意を感じさせるものであった。



6. 特別展示・企画



■Lifestyle Innovation 2013

(展示ホール6、試乗・走行デモ: 展示ホール7~8)

出展者数: 101社・団体

後援: 一般社団法人日本電機工業会 (JEMA)、
一般社団法人日本自動車工業会 (JAMA)

“スマート”は技術提案から生活提案へ進化する

テクノロジーの発展により、人々のライフスタイルは進化を続けている。いつでも、どこでも、ネットワークにつながるインフラが整備され、デジタル機器がつながり、プラットフォーム化した。IT・エレクトロニクスが複数のネットワークとつながり、スマート化が進み、そして、ライフスタイルと社会のさらなる進化のために、“スマート”は技術提案から生活提案へと進化が求められている。

CEATEC JAPAN 2013では、「Smart Mobility」「Smart House & Home Appliance」「Smart Healthcare」「Smart SOHO」の4つのテーマにおいて、特別展示「Lifestyle Innovation 2013」と関連コンファレンスの実施により、明日のライフスタイルと社会の体験提案を集約した。

① Smart Mobility

体験コーナー／走行デモを設置し、試乗や走行デモをお楽しみいただいた。
また、10月2日(水)にはITS世界会議2013と東京モーターショー2013との連携シンポジウムを開催した。

② Smart House & Home Appliance

エコネットコンソーシアムの協力による展示コーナーを実施した。
また、10月4日(金)にはJEITA企画「スマートメータが切り開く新しいスマートハウス」をテーマにパネルディスカッションを開催した。

③ Smart Healthcare

コンティニューヘルスアライアンスの協力により展示企画として「デジタルヘルスケア・プラザ」を実施した。また、10月3日(木)JEITA企画「第4回医療ヘルスケア産業イノベーションフォーラム」を開催した。

④ Smart SOHO

展示企画としてSmart SOHO and Contents Technology Pavilionを実施した。



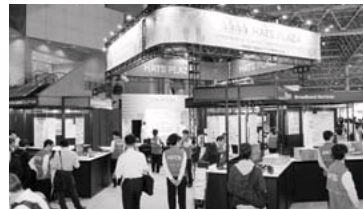
ライフ&ソサエティステージ

■HATS PLAZA

(展示ホール4)

出展者数: 14社

企画: 一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)



HATS推進会議による、複数メーカーの最先端通信機器間の相互接続デモンストレーション展示や、相互接続の重要性を楽しく分かり易く伝えるステージプレゼンテーションを実施した。

■アクセシビリティPLAZA

(展示ホール4)

出展者数: 3社

企画: 一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 (CIAJ)



情報通信アクセス協議会は、障がい者・高齢者等が便利に使用できる各種通信機器・サービス等の展示、デモンストレーションを展開した。

■テレビの進化を体感! (NHK/JEITA)

(展示ホール5)

企画: 日本放送協会 (NHK)、一般社団法人電子情報技術産業協会 (JEITA)



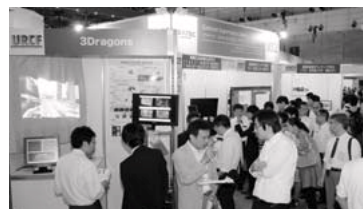
次世代の高臨場感放送「スーパーハイビジョン」と、実用化を迎えた放送通信連携サービス「ハイブリッドキャスト」を中心に、テレビの進化を体感いただいた。

■コンテンツ・エクスペリエンス・ゾーン

(展示ホール5)

出展者数: 16社

企画: 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム



超臨場感技術を活用した立体映像や多視点映像および五感・多感覚コンテンツ、テレワーク技術など、さまざまな最新技術を活用した3D映像アプリケーションおよびそのコンテンツを中心に、今までにない臨場感を持った新たなコミュニケーションを体験いただいた。

ICT Suite

■クラウドコンピューティングプラザ

(展示ホール3)

出展者数:24社

企画:クラウド・ビジネス・アライアンス(CBA)



クラウドコンピューティングプラザでは、省エネデータセンター(DC)構築、スマートデバイスの活用と運用管理、業務システムや統計情報活用システムなど、様々な分野のクラウドをわかりやすく紹介した。

■商工会議所ビジネススクエア

(展示ホール3)

出展者数:9社

企画:東京商工会議所 他

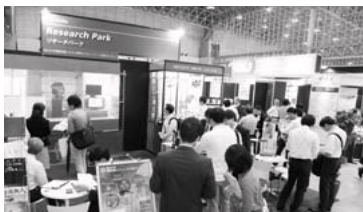


商工会議所ビジネススクエアでは、多数の商工会議所会員企業の製品・技術、サービスを紹介した。

■リサーチパーク

(展示ホール3)

出展者数:4社・団体



大学研究室や公的機関の研究がIT・エレクトロニクスの研究技術を紹介するコーナー。研究・教育機関と産業界との交流・連携を促進する取り組みとして実施した。

キーテクノロジーステージ

■自治体PLAZA

(展示ホール3、他)

出展者数:17社・団体

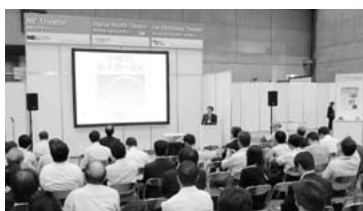


全国の地域・自治体との連携・協働により、地域におけるIT・エレクトロニクス産業の集積促進と、優れた地域関連企業の情報発信・顧客開拓・販路拡大を支援し貢献する場を提供した。

■NEシアター

(展示ホール3)

企画:日経エレクトロニクス、日経ものづくり、日経Automotive Technology、デジタルヘルスOnline



NEシアターでは、開催期間中の全日にわたり注目の最新エレクトロニクス技術、次世代ヘルスケア機器開発に必要なポイント、次世代オートモティブ・テクノロジーを支える最新のエレクトロニクス・トレンド等、様々なシアター講演を実施した。

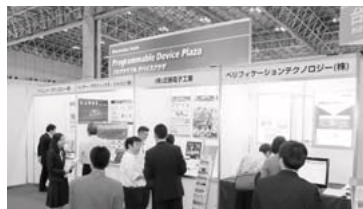
Electronics Suite

■プログラマブル デバイスプラザ

(展示ホール3)

出展者数:10社

企画:FPGA/PLD プログラマブルデバイス実行委員会



進化し続けるプログラマブル デバイスは、まさに“無敵デバイス”。拡大するアプリケーションを実現するプログラマブル デバイス設計から実装技術等、先端テクノロジーを紹介した。

土曜日イベント ※いずれも10月5日(土)のみ実施

■ジュニア&キッズ電子工作教室

(展示ホール3) 参加者数:208名

協賛:ワイヤレスパワーコンソーシアム(WPC)/学研

工作キット:ワイヤレス給電実験スピーカー



小学生および親子連れを対象に、ものづくりの楽しさを体験し、エレクトロニクスに興味を持っていただくことを目的に電子工作教室を開校。組み立てた完成品は参加者にプレゼントした。

■全日本ロボット相撲大会

(展示ホール3)

主催:全国工業高校校長会、富士ソフト株式会社



全日本ロボット相撲大会の高校生関東大会が今年もCEATEC JAPANの会場で開催され、次世代を担う高校生が、開発に一年間を費やした自慢のロボットで、それぞれのパフォーマンスを競った。

■学生のためのIT・エレクトロニクス業界研究セミナー

(10:00~12:30 国際会議場201) 参加者数:154名

企画:一般社団法人電子情報技術産業協会、IT・エレクトロニクス人材育成検討会



企業の最前線で活躍するエンジニアからの講演と直接対話ができる機会を設け、業界、企業研究を進めている学生、学校関係者、IT・エレクトロニクス企業との情報交換の場として開催した。

7. アワード

(1) CEATEC AWARD 2013

CEATEC AWARDは一昨年の2011年、「ITエレクトロニクス産業が提案する安心・安全でスマートな社会」を推進スローガンに掲げ、その理念を表現することを目的に新設され、今年で三回目となる。CEATEC JAPAN出展企業が応募する、出展製品、技術、サービスを、厳正な審査を経て、特に優れたイノベーション力を発揮した技術・製品・サービス・システム等を表彰する。審査は、学術領域、メディア領域を代表する審査委員により、事前の書類選考による一次審査を経たものを会場で実機審査を行い、各賞が決定される。今年は80件の応募があり、各賞が選考された。

①受賞者一覧

■経済産業大臣賞



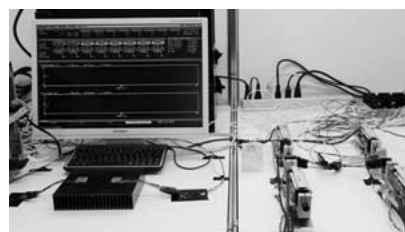
ピエゾフィルムスピーカー「スマートソニック サウンド」
京セラ(株)

■総務大臣賞



次世代移動通信 (5G)
(株)NTTドコモ

■審査員特別賞



温熱覚通信システム
慶應義塾大学 理工学部 桂研究室

●プロダクツ部門



〈グランプリ〉
世界初20型4K IPSα液晶パネル搭載 4Kタブレット「TOUGH PAD 4K」
パナソニック(株)



〈準グランプリ〉
レンズスタイルカメラ「DSC-QX100」 「DSC-QX10」
ソニー (株) / ソニーマーケティング(株)



〈準グランプリ〉
可搬型DNA解析装置
日本電気(株)

●ネットワーク&サービス部門



〈グランプリ〉
クラウド型EV・PHV充電インフラサービス
日本電気(株)

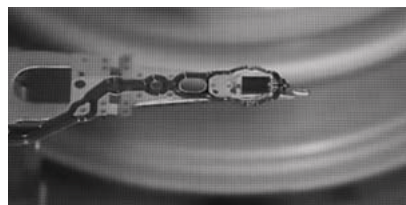


〈準グランプリ〉
搬型緊急用ヘッドエンド
DXアンテナ(株)



〈準グランプリ〉
スマートアグリネットワークシステム～TPPに対抗する6次産業化～
ニチコン(株)

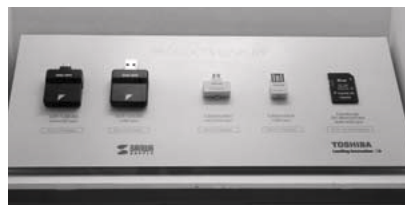
●キーテクノロジー部門



〈グランプリ〉
熱アシスト記録用ヘッド
TDK(株)



〈準グランプリ〉
エアリアル・イメージング・プレート
(株)アスカネット



〈準グランプリ〉
TransferJet対応USBアダプタ
(一社) TransferJetコンソーシアム

●コアテクノロジー部門



〈グランプリ〉
固体水素源型燃料電池システム
ローム(株)



〈準グランプリ〉
0.25mm×0.125mmサイズ超小型チップ部品の開発
(株)村田製作所



〈準グランプリ〉
SiCパワーデバイス搭載 DC-DCコンバータ
アルプス電気(株)、アルプス・グリーンデバイス(株) / ローム(株) [共同受賞]

②審査委員会

■学会(順不同)

井上 友二 氏(一般社団法人電子情報通信学会 会長)
 村上 篤道 氏(一般社団法人電子情報通信学会 企画室長)
 白木 靖寛 氏(公益社団法人応用物理学会 監事・前会長)
 黒田 徹 氏(一般社団法人映像情報メディア学会 副会長)
 中田 登志之 氏(一般社団法人情報処理学会 副会長)

■メディア(順不同)

室山 哲也 氏(日本放送協会 解説主幹)
 関口 和一 氏(日本経済新聞社 論説委員兼編集委員)
 林 哲史 氏(日経BP社 電子・機械局長)
 石田 雅也 氏(アイティメディア株式会社 EMインダストリー事業部長)

■大臣賞選考オブザーバ(建制順)

総務省、経済産業省

③発表・表彰式

■大臣賞の発表・表彰

日時: 10月1日(火)12:00~ 場所: CEATEC JAPAN 2013オープニングレセプション会場(ホテルニューオータニ幕張)

■部門賞の発表・表彰

- 一次審査通過製品の発表
 日時: 9月18日(水)11:15~ 場所: CEATEC JAPAN 2013開催記者会見会場(大手町・サンケイホール)
- 各部門グランプリ、準グランプリ、審査委員会特別賞の発表
 日時: 10月2日(水)10:00 方法: プレスリリース、CEATEC JAPAN公式Website、会場エントランス掲出
- 各部門グランプリ、準グランプリ、審査委員会特別賞の表彰
 日時: 10月3日(木)10:00~ 場所: CEATEC JAPAN 2013 会場内(幕張メッセ国際会議場 201号室)

(2) 米国メディアパネル・イノベーションアワード 2013

「米国メディアパネル・イノベーションアワード」では、米国のIT・家電関係のジャーナリストが、CEATEC JAPANに出展された技術、製品、サービスを現場で徹底取材して、革新性に優れ、米国市場への影響力が高いと判断したものを選び、優れたものにアワードを授与する。CEATEC JAPAN 2013では、8人の米国メディアのジャーナリストたちが会場内ブースを実際に取材。厳正な審査の結果選定された10部門の部門賞およびグランプリが表彰された。今年は、新たにインダストリアルデザイン部門を設けたほか、CEATEC JAPAN 2013の開催テーマである、「スマートイノベーション 明日の暮らしと社会を創る技術力」にちなんだ「スマートモビリティ」が特別賞として設けられた。



〈グランプリ〉
自動運転技術
日産自動車(株)

①受賞者一覧

部 門	会社名	製 品
グランプリ	日産自動車(株)	自動運転技術
Home Entertainment	(株)東芝	レグザクラウドサービス「タイムオン」
Electronic Component	シャープ(株)	MEMS/IGZOディスプレイ
Software	ソニー (株) / ソニーマーケティング(株)	Info-Eye
Computing and Networking	(株)村田製作所 (Ellipticlabsとの協業)	表面実装型超音波センサ
Mobile Technology	京セラ(株)	LTE対応ラグスマートフォン「トルク」
Digital Imaging	MASTOR TECHNOLOGY LTD.	ステディカム
Smart Community	富士通(株)	植物工場
Health & Household	日本電気(株)	ポータブル型DNA解析装置
Industrial Design	シャープ(株)	フレームレスディスプレイ
特別賞・Smart Mobility	日産自動車(株)	自動運転技術

②審査員

マイケル・カネロス氏(審査員長)(Michael Kanellios - Greenbiz.com, Forbes.com (Chairman))
 マーク・スィーヴィー氏 (Mark Seavy - Consumer Electronics Daily)
 トム・サミリアン氏 (Tom Samiljan - Men's Journal, Travel & Leisure)
 ヒュバート・ニューエン氏 (Hubert Nguyen - Ubergizmo.com)

ティム・スティーブンス氏 (Tim Stevens - Editor at Large, CNET)
 リチャード・レイ氏 (Richard Lai - Senior Associate Editor, Engadget)
 アウリ・ライムザディ氏 (Auri Rahimzadeh - The Auri Group, LLC)
 リッチ・デムロ氏 (Rich DeMuro - Tech Reporter, KTLA-5 TV)

③発表・表彰式

日時: 10月3日(木)12:00 ~ 13:00 会場: CEATEC JAPAN 2013 会場内(幕張メッセ国際会議場 201号室)



8. 出展者一覧

■CEATEC JAPAN

アークソフト(株)
 (株)アーツエイハン
 (株)アートファクトリー
 ERNI Electronics GmbH
 RCL DISPLAY LTD.
 IM Co., Ltd.
 アイクレックス(株)
 ICT RESORT OKINAWA(名護市、宜野座村)
 名護市
 宜野座村
 (株)アイシル／(株)ロイノス
 ITTI COMPANY LIMITED
 IBIS Quality Framework (JEITA ECセンター EDA標準WG)
 アイビーボ(株)来夢
 青森中核工業団地企業立地推進協議会
 アクセシビリティ PLAZA
 (株)プラスヴォイス
 (株)ミツエーリンクス
 (株)ユニコム
 アクテック(株)
 (株)アスカネット
 アスキー
 アストロデザイン(株)
 アルプス電気(株)
 (株)異次元
 横浜国立大学
 (株)バイケーウ
 IFA／国際コンシューマ・エレクトロニクス展
 イベントレジスト(株)
 (株)インコム
 INTERNATIONAL CES
 インテル(株)
 INNOBIZ ASSOCIATION
 DAE KYOUNG IND. CO., LTD.
 GT CO., LTD.
 DICAPAC CO., LTD.
 LIBERO SYSTEM CO., LTD.
 CNS LINK CO., LTD.
 SPRINGWAVE CO., LTD.
 SEJU ENGINEERING CO., LTD.
 ILSUNG IND.
 ULIS
 (株)エイミックス
 ams ジャパン(株)
 (株)エコプロ アイシーティージャパン
 AnyDATA Corporation
 NEC グループ
 NECトーキン(株)
 (株)NHKメディアテクノロジー
 NSM Initiatives LLC
 NLTテクノロジー(株)
 (株)NTTドコモ
 (株)オウルテック／SHUN HING SPRING LIMITED
 大阪外国企業誘致センター
 オータックス(株)
 (株)オートメレビュース社
 (株)オーム社
 オキツモ(株)
 山下マテリアル(株)
 (株)オゼットクリエイティブ
 オムロン(株)
 オムロンヘルスケア(株)
 加賀ハイテック(株)
 Coming Plastic Co., Ltd.
 Kisomo innovation corp.
 京セラ(株)
 京セラSLCテクノロジー(株)
 京セラオブテック(株)
 京セラケミカル(株)
 京セラコネクタプロダクツ(株)
 京セラディスプレイ(株)
 京都試作ネット
 CLOVER DISPLAY LIMITED
 (株)グローバルサイバーグループ
 クロニクス(株)
 慶應義塾大学 理工学部 桂研究室
 (株)ケイティーエル
 コアシシステム(株)
 KOA(株)
 コーデンシ(株)
 (株)コールトロール
 (株)コスモサウンド
 KORINS INC.

KONG HONG CORPORATION LIMITED
 コンテンツエクスペリエンスゾーン
 超臨場感コミュニケーション産学官フォーラム(URCF)
 アストロデザイン(株)
 FA・システムエンジニアリング(株)
 OKI
 東京農工大学
 京都大学
 (株)計測技術研究所
 中京テレビ放送(株)
 シャープ(株)
 慶應義塾大学
 福井大学
 名古屋大学
 東京大学／廣瀬・谷川研究室
 合同会社3Dragons
 (株)ニューサイトジャパン
 筑波大学／視覚メディア研究室
 (株)コンピュータシステム研究所
 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
 (株)サイバーノイズ
 (株)サンテクノロジ
 Suntec Software (Shanghai) Co., Ltd.
 サンライク(株)
 サンワサプライ(株)
 CWB Group
 (株)ジェネライツ
 滋賀県産業立地推進協議会・滋賀県
 (株)システム・テクノロジ・アイ
 CIVIC MEDIA CO., LTD.
 シャープ(株)
 江海ジャパン(株)
 NANTONG JIANGHAI CAPACITOR CO., LTD.
 SUZHOU IE-TECH CO., LTD.
 JUNSUNGTECH CO., LTD.
 一般社団法人情報処理学会
 (株)ジョルテ
 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
 (株)シンク・ラボラトリー
 新日鉄住金ソリューションズ(株)
 スタンレー電気(株)
 スミダコーポレーション(株)
 (株)SUWAオプトロニクス
 SEIDIO, INC.
 セビット(国際情報通信技術見本市)
 全国電子部品流通連合会
 ソーラージャーナル
 (株)ゾックス
 ソニー(株)／ソニーマーケティング(株)
 ソノースター(株)
 Zhongshan Longde S&T Technology Co., Ltd.
 大研化学グループ
 (株)大真空
 太洋工業(株)
 太陽誘電(株)
 TAIWAN EXTERNAL TRADE DEVELOPMENT COUNCIL
 TAIWAN ELECTRICAL AND ELECTRONIC
 MANUFACTURERS' ASSOCIATION
 AJATO CO., LTD.
 BIZLINK INTERNATIONAL CORPORATION
 CHILISIN ELECTRONICS CORP.
 ELKA INTERNATIONAL LTD.
 GI FAR TECHNOLOGY CO., LTD.
 GLORY MARK ELECTRONIC LTD.
 HI-LIGHT ELECTRONIC CO., LTD.
 HONOLA CO., LTD.
 JENJAAN QUARTEK CORPORATION
 JOINT TECH ELECTRONIC INDUSTRIAL CO., LTD.
 JOULES MILES CO., LTD.
 KING WINS TECHNOLOGY CO., LTD.
 LENO O ELECTRONICS CO., LTD.
 MAX ECHO TECHNOLOGY CORPORATION
 MING CHIANG PRECISION CO., LTD.
 ONCQUE CORPORATION
 SFI ELECTRONICS TECHNOLOGY INC.
 SHUN KUANG CO., LTD.
 TAITEK COMPONENTS CO., LTD.
 T-GLOBAL TECHNOLOGY CO., LTD.
 TOPCOM TECHNOLOGY CO., LTD.
 TRANS ELECTRIC CO., LTD.
 UNISONIC TECHNOLOGIES CO., LTD.
 VIKING TECH CORPORATION
 WELL BUYING INDUSTRIAL CO., LTD.
 WINSTAR DISPLAY CO., LTD.
 YFC-BONEAGLE ELECTRIC CO., LTD.

YOKETAN CORPORATION
 多治見無線電機(株)
 タックシステム(株)
 (株)タニタ
 田淵電機(株)
 (株)タムラ製作所
 千葉県
 千葉市
 China Electronic Appliance Corporation
 Changzhou Tonghui Electronic Co., Ltd.
 China Electronics Fair/China Information Technology Expo
 Dongguan city Zhongqi Electronics Technology Co., Ltd.
 HINEN ELETRONICS (Shenzhen) Co., Ltd.
 Hollyland (China) Electronics Technology Corporation Limited
 Huizhou HEG Technology Co., Ltd.
 IBE Electronics Co., Ltd.
 Lumi Legend Corporation
 NINGBO KEPO ELECTRONICS CO., LTD.
 SHENZHEN HELLO TECH ENERGY CO., LTD.
 SHENZHEN JINGHUA DISPLAYS CO., LTD.
 Shenzhen Ketaili Technology Co., Ltd.
 Shenzhen WJM Silicene&Plastic Electronic Co., Ltd.
 Well Ascent Electronic(Ganzhou)Co., Ltd.
 Yuehua Holding Group Co., Ltd.
 Yuyao lede computer slience&technology. Co., Ltd.
 ZheJiang Hiye Electronics CO., Ltd.
 (株)昌星
 TE コネクティブティグループ
 タイコ エレクトロニクス ジャパン合同会社
 ドイチエ・ジャパン(株)
 TDK(株)
 DXアンテナ(株)
 テクトロニクス
 (株)テクニカル
 テクノブレーン(株)
 テレダイン・レクロイ・ジャパン(株)
 テレビの進化を体感! (NHK／JEITA)
 (株)電源設計
 (株)電子ジャーナル
 一般社団法人電子情報技術産業協会
 一般社団法人電子情報通信学会
 (株)デンソー
 一般社団法人電波産業会
 (株)電波新聞社
 東海通信工業(株)
 (株)東京ウエルズ
 東京コイルエンジニアリング(株)
 (株)東芝
 東洋電機(株)
 トライボッドワークス(株)
 一般社団法人TransferJetコンソーシアム
 Telit Wireless Solutions
 長崎県
 イサハヤ電子(株)
 (有)ランカードコム
 有安オート
 (株)プロゼ
 (株)七星科学研究所
 (株)ニソール
 ニチコン(株)
 日刊工業新聞社
 日経BP社
 日産化学工業(株)
 ニッパツ(日本発条(株))
 日本アンテナ(株)
 日本ガイン(株)
 日本ケミコン(株)
 日本電気硝子(株)
 日本オートマチックマシン(株)
 (株)日本経済新聞社
 日本航空電子工業(株)
 一般財団法人日本情報経済社会推進協会
 日本電波工業(株)
 日本ナショナルインスツルメンツ(株)
 日本マルコ(株)
 ノウルズ・エレクトロニクス・ジャパン(株)
 ノリタケ伊勢電子(株)
 (株)ノリタケカンパニーリミテド
 バイオニア(株)
 HYPERSYNES INTERNATIONAL LIMITED
 HATS PLAZA
 ・PBXグループ
 NEC
 OKI
 (株)日立製作所

富士通(株)
 ・MMグループ(HDTV等)
 日本電信電話(株)
 (株)ネイクス
 ・FAXグループ
 CIAJ 画像情報ファクシミリ委員会
 ・10G-EPONグループ
 OKI
 住友電気工業(株)
 PMCシエラ・ジャパン(株)
 (株)日立製作所
 富士通(株)
 三菱電機(株)
 ・TTCグループ
 一般社団法人情報通信技術委員会
 バッドエルフ
 パナソニック(株)
 浜井電球工業(株)
 浜松ホトニクス(株)
 (株)ピージージャパン
 東広島市
 日立金属(株)
 (株)ヒューブレイン
 華為技術日本(株)
 FIRSTOHM
 (株)フィリップス エレクトロニクス ジャパン
 (株)フォーラムエイト
 フォスター電機(株)
 (株)FOX
 福井鋳造(株)
 (株)フジクラ
 フジコフ工業(株)
 (株)フジコム
 富士通(株)
 フラウンホーファー HHI
 (株)プロット
 ヘガネスジャパン(株)
 べんてる(株)
 (株)ホーリック
 北陸地域企業誘致連絡会
 北陸電気工業(株)
 POCONS CO., LTD.
 ホシデン(株)
 香港貿易発展局
 MASTOR TECHNOLOGY LTD.
 マスプロ電工(株)
 (株)マックエイト
 ミック電子工業(株)
 三菱電機(株)
 ミツミ電機(株)
 (株)村田製作所
 メディアブリッジ(株)
 (株)メルシー
 (株)モトヤ
 (株)ヤマト
 ヤマト電子(株)
 Yangzhou Yangjie Electronic Technology Co., Ltd.
 ユニオン テック(株)
 (株)ライスター・テクノロジーーズ
 (株)ラシュラン
 (株)リョーサン
 ルビコン(株)
 (株)レイトロン
 Rovi Corporation
 ローデ・シュワルツ・ジャパン(株)
 ローム(株)
 アグレット(株)
 カイオニクス
 ラビスセミコンダクタ(株)
 (株)ロジック・リサーチ

■ICT Suite/Electronics Suite

一般社団法人IT検証産業協会
 アンリツ(株)
 SBクリエイティブ(株)
 (株)オータマ
 クラウドコンピューティングプラザ
 (株)アイビーコア研究所
 (株)アスペックス
 アセンテック(株)
 (株)EWMジャパン
 (株)ウェブサービス・ディベロップメント
 NTTコミュニケーションズ
 エフ・アイ・ディー・パシフィック(株)

(株)エム・ソフト
 局アナnet(株)
 クオリティソフト(株)
 クラウド・ビジネス・アライアンス
 (株)CJ
 (株)スマイルワークス
 中央システム(株)
 使えるねっと(株)
 (株)ドヴァ
 日本クラウドファイリング(株)
 日本システムウェア(株)
 ニューロネット(株)
 ネットワンシステムズ(株)
 (株)バンデン／一般社団法人Ganbatte365
 Future Facilities(株)
 ユーグリッド
 KBB, I&D(株)
 サイバネットシステム(株)
 SUNGWO MOBILE
 サンシン電気(株)
 新光和(株)
 シンフォニーエレクトロニクス(株)
 臭素科学・環境フォーラム(日本)
 商工会議所ビジネススクエア
 エクスウェア(株)
 (株)エス・アイ・エス
 (株)グラッブス
 ジャパンメディアシステム(株)
 (株)SELTECH
 都築テクノサービス(株)
 パソコンサポート屋
 ビジネスメンター(株)
 (株)ブラージュ
 独立行政法人情報通信研究機構
 (有)アグリフューチャー
 (株)アクロスソリューションズ
 (株)キャトルアイ・サイエンス
 (有)グーテック／(株)日本アレフ(製造販売委託)
 (株)国際電気通信基礎技術研究所
 ／(株)ATR-Promotions／(株)ATR-Trek
 ／ATR Learning Technology(株)／ヴイストーン(株)
 (株)GClue
 (株)シュアール
 ソフネットジャパン(株)
 (株)デュエラ
 (株)横須賀テレコムリサーチパーク
 ／ユーザーテクノロジ(株)(販売元)
 一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会
 (株)シード・プランニング
 (株)ソフトフロント
 (株)タカコム
 都築電気(株)
 (株)ナカヨ通信機
 (株)ミライト
 (株)リコー
 セイコーインスツル(株)
 (株)セイワ
 (有)ソネット技研
 (株)ソフトフロント
 タキテック(株)
 GT Contact., Ltd.
 DA FORTUNE (INTERNATIONAL) COMPANY LIMITED
 都築電気(株)
 豊田合成(株)
 (株)日本工業新聞社
 プログラムابل デバイスプラザ
 アジレント・テクノロジー(株)
 アルデック・ジャパン(株)
 特定非営利活動法人FPGAコンソーシアム
 国立大学法人熊本大学(末吉研究室)
 太陽工業(株)
 日本サイプレス(株)
 三菱電機マイコン機器ソフトウェア(株)
 (株)近藤電子工業
 ペリフィケーションテクノロジー(株)
 メンター・グラフィックス・ジャパン(株)
 (株)マウビック
 リサーチパーク
 神奈川工科大学 情報工学科 i-Androidの会
 京大、電通大、神戸デジタル・ラボ研究開発チーム
 神戸大学 大学院理学研究科 木村研究室
 東北大学情報知能システム研究センター(IIIS研究センター)
 YRP研究開発推進協会／ブロードバンド・ワイヤレス・フォーラム

■ライフスタイル イノベーション 2013

特定非営利活動法人ITS Japan
 ITS世界会議東京2013 日本組織委員会 事務局
 (株)インターネットテレビジョン／(株)EVC
 エコネットコンソーシアム
 (株)アイ・オー・データ機器
 (株)ACCESS
 アンリツエンジニアリング(株)
 (株)エクスカル
 OKI
 神奈川工科大学
 河村電器産業(株)
 京セラ(株)
 サンデン(株)
 (株)シーイーシー
 (株)スマートパワーシステム
 (株)ソーニーコンピュータサイエンス研究所
 (株)TSP
 一般財団法人電気安全環境研究所
 (株)日新システムズ
 日本システムウェア(株)
 東日本電信電話(株)
 富士通関西中部ネットテック(株)
 (株)メディオテック
 (株)ユビキタス
 (株)エフエム東京
 クラリオン(株)
 グローバルユースフェスタ
 (株)ケルコ電子システム
 JEITA／スマート・ドライブ・テクノロジー
 ・ITS事業委員会
 アルパイン(株)
 NEC
 OKI
 クラリオン(株)
 (株)デンソー
 (株)東芝
 日本無線(株)
 パナソニック(株)
 (株)日立製作所
 富士通(株)
 古野電気(株)
 三菱重工業(株)
 三菱電機(株)
 (株)村田製作所
 矢崎エナジーシステム(株)
 インターネットITS協議会
 一般財団法人日本自動車研究所(JARI)
 一般社団法人ITSサービス推進機構(ISPA)
 ・カーエレクトロニクス事業委員会
 アルパイン(株)
 クラリオン(株)
 (株)JVCケンウッド
 ジョンソンコントロールズ(株)
 (株)デンソー
 ハーマンインターナショナル(株)
 バイオニア(株)
 パナソニック(株)
 富士通テン(株)
 三菱電機(株)
 デジタルヘルスケア・プラザ
 コンティニュー・ヘルス・アライアンス
 (株)アライブ
 インテル(株)
 ウエルネスデータ(株)
 (株)エー・アンド・デイ
 SFKメディカル(株)
 NTTレゾナント(株)
 (株)エム・オー・エム・テクノロジー
 (株)エムティーアイ
 オムロンヘルスケア(株)
 (株)コア 中部カンパニー
 シャープ(株)
 ソニー(株)
 (株)東芝
 日本オラル(株)
 日本デキス・インスツルメンツ(株)
 日本電信電話(株)
 Nordic Semiconductor ASA
 ビオスピックス(株)
 富士ソフト(株)
 ブラネックスコミュニケーションズ(株)
 (株)YUWA
 菱洋エレクトロ(株)
 ルネサス エレクトロニクス(株)
 (株)ルネサス
 (株)東洋レーベル
 一般財団法人道路交通情報通信システムセンター(VICSセンター)
 トヨタ自動車(株)
 トヨタホーム(株)
 日産自動車(株)
 (株)VESTEC JAPAN
 本田技研工業(株)
 マイコンカーラリー体験展示
 ルネサスマイコンカーラリー実行委員会
 ジャパンマイコンカーラリー実行委員会
 ルネサスエレクトロニクス(株)
 (株)ルネサスソリューションズ
 マツダ(株)
 ワイヤレスパワーコンソーシアム

9. コンファレンス

(1) コンファレンス実施規模

トラック名／セッション数		聴講者数
K キーノートスピーチ	15	5,092名
G ゲストスピーチ	2	1,319名
SP スペシャルセッション	7	3,619名
CS コンファレンススポンサー	6	783名
TR トレンドセッション	9	996名
IS インダストリシステムセッション	11	779名

(2) コンファレンスプログラム

■ キーノートスピーチ Keynote Speeches Media Partners THE WALL STREET JOURNAL. 同時通訳

10.1 火	
K-01 14:00-14:45	国際会議場2階 コンベンションホールAB
「成長戦略」実現に向けたソフトウェア産業ビジョン～世界最高水準のIT活用社会の実現のための官民の役割とは～	
【スピーカー】一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会 会長 株式会社オービックビジネスコンサルタント 代表取締役社長 和田 成史 氏	

K-02 15:00-15:45	国際会議場2階 コンベンションホールAB
「成長の時代を導くイノベーション」	
【スピーカー】株式会社東芝 取締役副会長 佐々木 則夫 氏	

K-03 16:00-16:45	国際会議場2階 コンベンションホールAB
ICT&エレクトロニクスで実現する豊かな暮らし～ Technology to Customers ～	
【スピーカー】シャープ株式会社 会長 奥田 隆司 氏	

10.2 水	
K-05 10:00-11:00	国際会議場2階 コンベンションホールB
スマート社会のインフラとなる通信技術	
【スピーカー】株式会社村田製作所 取締役 常務執行役員 通信事業本部 本部長 中島 規巨 氏	

K-06 11:30-12:30	国際会議場2階 コンベンションホールB
「再生可能エネルギーを利用した分散型電源およびV2Hシステムとパワーエレクトロニクス用デバイス」	
【スピーカー】ニチコン株式会社 取締役 執行役員 NECSTプロジェクト統括 山口 忠博 氏	

K-07 12:45-14:45	国際会議場2階 コンベンションホールB
スマートSOHO: マインドチェンジが必要! 組織から社会交流で仕事場が変わる	
【モデレータ】 株式会社ゴコロ 執行役員事業開発担当(元アイティメディア会長) 藤村 厚夫 氏	
【パネリスト】 オフィスロボックル 創設者 (株式会社内田洋行顧問) 堀田 一英 氏 サイボウズ株式会社 代表取締役社長 青野 慶久 氏 株式会社ネットラーニング 代表取締役 岸田 徹 氏 株式会社toor 代表取締役 高枝 佳男 氏 (＠奥会津から参加)	

K-08 15:00-17:00	国際会議場2階 コンベンションホールB
新モバイルOSが拓く新たな世界	
【パネリスト】 株式会社NTTドコモ プロダクト部 技術企画担当部長 杉村 領一 氏 一般社団法人 Mozilla Japan 代表理事 瀧田 佐登子 氏 株式会社ACCESS Co-CTO ACCESS Seoul CEO 植松 理昌 氏	
【モデレータ】 株式会社情報通信総合研究所 グローバル研究グループ 上席主任研究員 岸田 重行 氏	

10.3 木	
K-09 10:00-11:00	国際会議場2階 コンベンションホールB
ICTによる成長戦略	
【スピーカー】総務省 情報通信国際戦略局 情報通信国際戦略局長 阪本 泰男 氏	

K-10 11:30-12:30	国際会議場2階 コンベンションホールB
バリューパートナーを目指すNTTグループの取り組み	
【スピーカー】日本電信電話株式会社 代表取締役副社長 片山 泰祥 氏	

K-11 13:00-14:00	国際会議場2階 コンベンションホールB
スマートライフのパートナーへ～新たな価値創造への取り組み～	
【スピーカー】株式会社NTTドコモ 代表取締役副社長 岩崎 文夫 氏	

トラック名／セッション数		聴講者数
ST 規格・標準化・認証制度セッション	3	274名
MB モバイルセッション	6	546名
NW/ES 新技術・新製品セミナー/出展者セミナー	22	1,563名
EC 電子部品・デバイスセッション	1	165名
ENV 環境セッション	1	107名
CP コンシューマプロダクツセッション	2	295名

K-12 14:30-16:30	国際会議場2階 コンベンションホールB
第4回「医療ヘルスケア産業イノベーションフォーラム」～医療ヘルスケア産業の革新と新市場の創出に向けて～	
14:30-15:10 医療政策と医療機器政策の調和 【スピーカー】厚生労働省 医政局 関野 秀人 氏	
15:10-15:50 医療機器ソフトウェアをとりまく国内外の現況と将来について 【スピーカー】東京大学大学院工学系研究科 医療機器開発評価研究センター センター長 教授 佐久間 一郎 氏	
15:50-16:30 医療機器産業の海外展開に向けた政府への要望について 【スピーカー】日本医療機器産業連合会 会長 (テルモ株式会社 代表取締役 会長) 中尾 浩治 氏	

K-13 10:00-11:00	国際会議場2階 コンベンションホールB
テクノロジーの在り処は家に	
【スピーカー】IEEEスタンダード・アソシエーション 事務局長 コンスタンティノス・カラハリオス 氏	

K-14 11:30-12:30	国際会議場2階 コンベンションホールB
半導体が変わる医療機器の世界	
【スピーカー】ローム株式会社 常務取締役 品質担当、新規事業創出担当 高須 秀視 氏	

K-15 13:00-14:00	国際会議場2階 コンベンションホールB
世界最先端IT国家創造宣言について	
【スピーカー】内閣官房 内閣情報通信政策監(政府CIO) 情報通信技術(IT)総合戦略室長 遠藤 紘一 氏	

K-16 14:30-16:30	国際会議場2階 コンベンションホールB
スマートメータが切り開くスマートハウス	
【スピーカー】 経済産業省 商務情報政策局 情報経済課長 佐脇 紀代志 氏 JSCAスマートハウスビル 標準・事業促進検討会HEMS-TF 座長 (神奈川工科大学) 一色 正男 氏 JSCAスマートハウスビル 標準・事業促進検討会HEMS-TF 副座長 (慶應義塾大学) 梅嶋 真樹 氏 東京電力株式会社 パワーグリッド・カンパニー系統 エンジニアリングセンター 所長 岡本 浩 氏 株式会社東芝 社会インフラシステム社 電力流通システム事業部 スマートグリッド技術責任者 林 秀樹 氏 パナソニック株式会社 エコソリューションズ社 常務 竹川 禎信 氏 エコーネットコンソーシアム 理事長 種谷 元隆 氏	

■ ゲストスピーチ 同時通訳

10.1 火	
G-01 10:00-12:30	国際会議場2階 コンベンションホールAB
始動! 4K/8K時代	
【モデレータ】 明治大学 総合数理学部 先端メディアサイエンス学科 教授 荒川 薫 氏	
【パネリスト】 NHK放送技術研究所 副所長 黒田 徹 氏 スカパー-JSAT株式会社 取締役執行役員副社長 経営戦略本部本部長 仁藤 雅夫 氏 KBS技術研究所 技術研究2部 モバイル・DTV研究チーム チーム長 任 重坤 氏 (Mr. Yim Zungkon) 日本電信電話株式会社 理事 研究企画部門 プロデュース統括部長 川添 雄彦 氏 ソニー株式会社 業務執行役員SVP 中長期技術担当 技術渉外担当 島田 啓一郎 氏 株式会社東芝 デジタルプロダクツ&サービス社 統括技師長 安木 成次郎 氏 パナソニック株式会社 AVCネットワークス社 常務CTO 岡 秀幸 氏	
G-02 13:00-13:45	国際会議場2階 コンベンションホールAB
モバイル・コンピューティングの進化	
【スピーカー】インテル コーポレーション PCクライアント事業本部 上席副社長 兼 PCクライアント事業本部長 カーク・スカウゲン 氏	

トラック名／セッション数		聴講者数
HA HATS・アクセスビリティセッション	3	305名
GK 業界研究セミナー	1	154名
IEEE IEEE GCCE2013	28	636名
ICT ICTイノベーションフォーラム	9	382名
IEICE 電子情報通信学会	8	1,008名
合 計	134	18,023名

■ スペシャルセッション

10.1 火	
10:00-17:00 国際会議場3階 301～304会議室	
総務省 ICTイノベーションフォーラム2013	
10:00-10:10 開会挨拶 【スピーカー】総務省 大臣官房総括審議官 武井 俊幸 氏	

10:10-10:40	特別講演「進化し続けるインターネット」 【スピーカー】 大阪大学サイバーメディアセンター 教授 独立行政法人情報通信研究機構 テストベッド研究開発推進センター センター長 下條 真司 氏
-------------	---

10:45-15:45	オーラルセッション
10:45-17:00	ポスターセッション ICT重点技術の研究開発(平成24年度終了5課題16件) 戦略的国際連携型研究開発推進事業(同3課題) SCOPE(同55課題)

15:45-16:45	パネルディスカッション ～イノベーション創出の実現に向けて～ 【モデレータ】 慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科委員長・環境情報学部 教授 情報通信審議会 情報通信政策部会 イノベーション創出委員会 主査 徳田 英幸 氏 【パネリスト】 株式会社イノベーション研究所 代表取締役社長 丸の内「西岡塾」塾長 西岡 郁夫 氏 一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会 会長 伊藤忠テクノロジーベンチャーズ株式会社 代表取締役社長 安達 俊久 氏 株式会社ユークレナ 代表取締役社長 出雲 充 氏
-------------	--

16:45-17:00	総務省の取り組みの紹介 「総務省におけるイノベーション創出に向けた取り組みについて」 【スピーカー】 総務省 情報通信国際戦略局技術政策課 課長 田原 康生 氏
-------------	---

SP-01 10:30-12:40	国際会議場2階 201会議室
新産業創出フォーラム	
10:30-11:10	セッション1 日本の魅力を生かした新たな価値創造産業に向けて 【スピーカー】経済産業省 商務情報政策局長 富田 健介 氏

11:10-11:40	セッション2 戦略市場創造プラン「国民の健康寿命の延伸」 ～健康長寿産業の創出に向けて～ 【スピーカー】経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課長 森田 弘一 氏
-------------	---

11:40-12:10	セッション3 クールジャパン推進の取組みについて 【スピーカー】経済産業省 商務情報政策局 クリエイティブ産業課長 伊吹 英明 氏
-------------	--

12:10-12:40	セッション4 NEDOの研究開発の成果と新産業創出について 【スピーカー】独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) NEDO 電子・材料・ナノテクノロジー部長 岡田 武 氏
-------------	---

10.2 水	
SP-05 10:00-13:00	国際会議場2階 コンベンションホールA 同時通訳
10:00-12:00	シンポジウム「家電の未来」 【スピーカー】東京大学 教授 坂村 健 氏 およびスピーカー数名

12:00-13:00	基調講演「オーディオにおける感動創造」 【スピーカー】一般社団法人日本オーディオ協会 会長 校條 亮治 氏
-------------	---

SP-07	14:00-17:40	国際会議場2階 コンベンションホールA
CEATEC JAPAN 2013/ITS世界会議/東京モーターショー3イベント連携シンポジウム 「高度運転支援システムの将来を支えるIT&エレクトロニクス技術」		
14:00-14:20	セッション1 モビリティサービスの新しいパラダイム 【スピーカー】 経済産業省 製造産業局 自動車課長 前田 泰宏 氏	
14:20-15:20	セッション2 "考えるクルマ"と交通社会の未来 【スピーカー】 日産自動車株式会社 副社長 山下 光彦 氏 ジャーナリスト 木村 太郎 氏 Product Manager (of Google's Autonomous Car) Anthony Levandowski	
15:20-16:00	セッション3 次代のクルマ技術を担う「昆虫力」～昆虫の感覚・脳・行動のしくみ～ 【スピーカー】 東京大学 先端科学技術研究センター・副所長 生命知能システム分野・教授 神崎 亮平 氏	
16:15-17:45	セッション4 パネルディスカッション より安全で安心な自動車社会を実現するために 【パネリスト】 日産自動車株式会社 執行役員 中畔 邦雄 氏 東京大学 生命知能システム分野・教授 神崎 亮平 氏 日本電気株式会社 情報・メディアプロセッシング研究所所長 山田 昭雄 氏 経済産業省 製造産業局 自動車課 電池・次世代技術・ITS推進室長 吉田 健一郎 氏 【モデレータ】 日経BP社 日経Automotive Technology編集 鶴原 吉郎 氏	
10.3 木		
SP-09	10:00-12:30	国際会議場2階 コンベンションホールA 同時通訳
IEEE GCCE基調講演 「Future Directions of CE」／「時計か? めがなか?」		
10:00-11:00	Future Directions of Consumer Electronics 【スピーカー】 IEEE Region 6 次期ディレクタ トム・コーリン 氏	
11:30-12:30	「時計とめがね：どっちが本命か?」 【スピーカー】 神戸大学 教授 塚本 昌彦 氏	

◆特別シンポジウム

SP-11	14:00-17:30	国際会議場2階 コンベンションホールA
未来を切り拓くスマートモビリティを実現する技術と将来ビジョン		
14:00-14:05	開会および趣旨の説明 【スピーカー】 電子情報通信学会 会長 井上 友二 氏	
14:05-14:35	情報通信第3の Paradigm と ITS 【スピーカー】 独立行政法人 情報通信研究機構 理事長 坂内 正夫 氏	
14:35-15:05	スマートモビリティ社会とつながるクルマの未来 【スピーカー】 トヨタ自動車株式会社 常務役員 友山 茂樹 氏	
15:10-16:30	スマートモビリティを支えるITS技術の発展 【パネリスト】 住友電気工業株式会社 常務取締役 矢野 厚 氏	
15:10-16:30	スマートモビリティを実現するパワーエレクトロニクス 【パネリスト】 三菱電機株式会社 常務執行役 堤 和彦 氏	
15:10-16:30	モバイル通信連携によるスマートモビリティ 【パネリスト】 株式会社NTTドコモ 執行役員 柴藤 稔 氏	
15:10-16:30	Twitterとスマートモビリティの融合 【パネリスト】 Twitter Japan パートナリング・ディレクター 牧野 友衛氏	
16:30-17:25	討論	
17:25-17:30	閉会あいさつ 【スピーカー】 電子情報通信学会 次期会長 酒井 善則 氏	

10.4 金		
SP-13	10:00-13:00	国際会議場2階 コンベンションホールA 同時通訳
IEEE GCCEシンポジウム 「激論!：テレビとスマホとインターネットの理想の生活空間とは?」		
【モデレータ】 慶応義塾大学 教授 村井 純 氏 【パネリスト】 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘教授 夏野 剛氏 株式会社日本技芸 リサーチャー 濱野 智史 氏 株式会社フジテレビジョン 常任顧問 関 祥行 氏 内閣官庁情報セキュリティセンター 副センター長 谷脇 康彦 氏		

SP-15	14:00-15:30	国際会議場2階 コンベンションホールA
パーソナルコンピューティング30年 ——これから何をを目指すのか		
【パネリスト】 インテル株式会社 取締役副社長 宗像 義恵 氏 NECパーソナルコンピュータ株式会社 執行役員 小野寺 忠司 氏 ソニー株式会社 VAIO&Mobile事業本部 副本部長 萩原 崇 氏 株式会社東芝 デジタルプロダクツ&サービス社 営業統括責任者 檜山 太郎 氏 パナソニック株式会社 AVCネットワークス社 ITプロダクツ事業部 事業部長 原田 秀昭 氏 富士通株式会社 コピキタスビジネス戦略本部部長代理 商品企画・プロモーション担当 松村 孝宏 氏 日本マイクソロフト株式会社 執行役 常務 コンシューマー&パートナーグループ担当 香山 春明 氏		
【モデレータ】 株式会社日経BP 中野 淳 氏		

■コンファレンススポンサー

10.2 水		
CS-G05	11:00-12:00	国際会議場2階 201会議室
A Touch of Silver 【スピーカー】 Mr. Sri Peruvemba, Chief Marketing Officer, Cambrios Technologies Corporation		
CS-G07	14:00-15:00	国際会議場2階 201会議室
IT企業進出先として最適のマレーシア 【スピーカー】 MSCマレーシア(マルチメディア開発公社) インフォテック・ディビジョン リージョナルマネージャー ラフィ・アズナル 氏 MSCマレーシア(マルチメディア開発公社) 日本代表 杉山 尋美 氏		

10.3 木		
CS-S09	12:30-16:30	国際会議場3階 304会議室
HD-PLCアライアンスセミナー HD-PLC3 スマートコミュニケーションに向けた新しい「HD-PLC」ソリューションの登場		
第一部 「HD-PLC」の取り組み概要		
12:30-12:40	開催挨拶「HD-PLC」普及に向けた新たな取り組み 【スピーカー】 HD-PLCアライアンス 会長 荒巻 道昌 氏	
12:40-12:55	講演1「HD-PLC3 —スマート家電・コミュニティへの展開 【スピーカー】 パナソニック株式会社 技術本部 AVC技術開発センター 所長 パナソニック システムネットワークス株式会社 専務取締役 松本 時和 氏	

12:55-13:15	講演2「HD-PLC」の進化した技術について 【スピーカー】 パナソニック システムネットワークス株式会社 PLC事業推進室 参事 井形 裕司 氏	
第二部 「HD-PLC」の普及に向けたソリューション提案		
13:15-13:30	講演3「普及を加速化するHD-PLC」ソリューション 【スピーカー】 HD-PLCアライアンス マーケティング/標準タスクフォース チームリーダー 田中 昭和 氏	
13:30-13:45	講演4「HEMS, BEMSにおける、HD-PLC」の活用及び920MHz帯無線とのハイブリッドソリューションの紹介 【スピーカー】 株式会社メガチップス 第3事業部 開発部 FAEGグループ 参事 石尾 康史 氏	
13:45-14:00	講演5「機器への組み込みに最適なHD-PLC」新規格「Inside」の紹介 【スピーカー】 ローム株式会社 LSI商品開発本部 オートモティブコントローラチーム グループリーダー 武村 哲也 氏	
14:20-14:35	講演6「HD-PLC」で実現するユビキタスネットワーク 【スピーカー】 株式会社ユビキタス 営業マーケティング本部 副本部長 兼 ビジネス開発部長 長谷川 聡 氏	

14:35-14:50	講演7「利用を簡単にするHD-PLC」モジュール、アダプタ製品 【スピーカー】 ミツミ電機株式会社 電子機器事業本部商品開発モジュール事業部 技術営業部 課長 安間 敏彦 氏	
14:50-15:05	講演8「HD-PLC」モジュール化への取組み 【スピーカー】 ホシデン株式会社 大阪第二事業部 RF技術課 岡野 信吾 氏	
15:05-15:45	特別招待講演「総務省におけるICT政策、ホームネットワーク・スマートグリッドの推進について 【スピーカー】 総務省 情報通信国際戦略局 通信規格課 企画官 河野 隆宏 氏	
第三部 PLCの評価と認証		
15:45-16:00	講演9「～標準評価装置～HD-PLCの測定・評価について 【スピーカー】 九州計測器株式会社 本社営業部 係長 田中 武海 氏	
16:00-16:10	講演10「HD-PLC」互換認証システムについて 【スピーカー】 HD-PLCアライアンス 認証担当 脇坂 俊幸 氏	
16:10-16:30	セミナー 終了後展示会	

CS-G11	14:00-15:00	国際会議場2階 201会議室
NOTTVにおける番組編成(ソーシャルサービスと番組との連携) 【スピーカー】 株式会社mmbi 編成統括部 セネラルマネージャー 島崎 敦 氏		
CS-G12	15:30-16:30	国際会議場2階 201会議室
モバキャス市場の活性化に向けた取り組み(エリア構築と新規参入促進) 【スピーカー】 株式会社ジャパン・モバイルキャスティング 技術企画部 部長 北川 真清 氏 株式会社ジャパン・モバイルキャスティング 営業部 部長 藤内 重和 氏		

10.4 金		
CS-G13	10:00-16:00	国際会議場2階 201会議室
V-Lowマルチメディア放送 1day コンファレンス		
10:00-10:15	オープニング 【スピーカー】 株式会社エフエム東京 取締役マルチメディア放送事業本部長 藤 勝之 氏 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授 中村 伊知哉 氏	
10:15-10:45	〈コンファレンス①〉 V-Lowマルチメディア放送の導入について 【スピーカー】 総務省 情報流通行政局 官房審議官 南 俊行 氏	
10:45-11:15	〈コンファレンス②〉 所謂「V-Lowマルチメディア放送」の事業推進方針 【スピーカー】 株式会社エフエム東京 取締役マルチメディア放送事業本部長 藤 勝之 氏	
11:15-11:45	〈コンファレンス③〉 CEATEC JAPAN 2013 V-Lowマルチメディア放送展示機器のご紹介 【スピーカー】 株式会社エフエム東京 マルチメディア放送事業本部 開発部 部長 小田 慎也 氏	
12:00-12:50	〈コンファレンス④〉 「自治体とV-Lowが連携! 安心安全コミュニティ放送の実現へ」 【スピーカー】 公立大学法人 神戸市外国語大学 総合文化教授 芝 勝徳 氏 BAN-BANネットワークス株式会社 ネットワーク企画部 次長 川端 建一郎 氏 株式会社エフエム東京 マルチメディア放送事業本部 副本部長 仁平 成彦 氏	
13:00-13:25	〈コンファレンス⑤〉 安心安全アプリとO2O、 V-Lowマルチメディア放送からGoogleグラスへ 【スピーカー】 ファーストメディア株式会社 代表取締役社長 CEO 山崎 佳一 氏 株式会社Nal 代表取締役 小巻 亜矢 氏	
13:35-14:00	〈コンファレンス⑥〉 V-Lowマルチメディア放送が切り拓く 新たなエンタテイメントの可能性 【スピーカー】 株式会社アップフロントグループ 執行役員 社長室長 吉田 勝弥 氏	
14:10-14:35	〈コンファレンス⑦〉 V-Low×ネットは最強のメディアになれるのか 【スピーカー】 株式会社ソフト 執行役員 メディア開発、アドテック/ロジ、データベース担当 八田 浩 氏	
14:45-15:25	〈コンファレンス⑧〉 V-Low×ネットは最強のメディア放送で地元を元気に! V-Low地域活性化プラン 【スピーカー】 株式会社マツキャンエリクソン 媒体本部 エクスベリエンスアーキテクト 山崎 裕也 氏 株式会社エフエム福岡 代表取締役社長 佐々木 亮 氏 株式会社エフエム東京 取締役マルチメディア放送事業本部長 藤 勝之 氏	
15:35-16:00	〈コンファレンス⑨〉 本当に始まるのね? V-Lowマルチメディア放送 【スピーカー】 慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科 教授 中村 伊知哉 氏	

CS-S12	15:30-16:30	国際会議場3階 304会議室
IEEEにおける未来の技術と標準規格		
【スピーカー】 IEEEスタンダード・アソシエーション 理事 グローバル調整委員会 委員 ネットワーショ社長 ロバート・フィッシュ 氏 IEEEスタンダード・アソシエーション 理事 IEEE 802.11ワーキング・グループ・チェア; マーベル・セミコンダクター 戦略マーケティング シニアマネジャー ブルース・フリーマー 氏		

10.2 水		
TR-A01	10:20-13:30	国際会議場3階 301会議室
JEITA ディスプレイデバイスフォーラム 2013 ～スマート社会における高精「彩」ディスプレイの期待～ 10:20-10:30 JEITAディスプレイデバイスフォーラム2013開催にあたり 【スピーカー】 JEITA ディスプレイデバイス部会 部会長 シャープ株式会社 執行役員 ディスプレイデバイス事業統轄 兼 ディスプレイデバイス事業本部長 今矢 明彦 氏		
10:30-11:10	薄型テレビの人間中心設計 【スピーカー】 成蹊大学 理工学部 システムデザイン学科 教授 窪田 悟 氏	
11:10-11:40	8K超高精細映像による次世代のテレビ放送 ～スーパーハイビジョン～ 【スピーカー】 日本放送協会 放送技術研究所 新機能デバイス研究部 研究主幹 栗田 泰市郎 氏	
11:40-12:10	未来のディスプレイ機器に対するニーズ調査結果 【スピーカー】 一般社団法人 電子情報技術産業協会 ディスプレイITプロジェクト 主幹研究員 植平 茂行 氏	
12:20-12:50	4K TVを支えるディスプレイデバイス技術 【スピーカー】 ソニー株式会社 R&Dプラットフォーム ディスプレイ開発部門・ディスプレイデバイス技術部 統括部長 岩城 一郎 氏	
12:50-13:30	究極のテレビ、究極の画質 【スピーカー】 津田塾大学 デジタル・メディア評論家 麻倉 怜士 氏	

TR-A02	14:00-17:00	国際会議場3階 301会議室
JEITAデザインフォーラム ～デザイナーはビジネスをデザインできるか!?		
【スピーカー】 株式会社スマイルズ 代表取締役社長 遠山 正道 氏 Mizuguchi Creative Office 代表取締役 水口 哲也 氏 【モデレータ】 株式会社アクセス AXIS誌編集長 石橋 勝利 氏		
TR-B01	11:00-12:00	国際会議場1階 101会議室
ソフトウェアの信頼性向上に向けた取組		
【スピーカー】 経済産業省 商務情報政策局 情報処理振興課長 江口 純一 氏		
TR-B02	14:00-15:00	国際会議場1階 101会議室
IT人材育成の現状と今後		
【スピーカー】 独立行政法人情報処理推進機構 IT人材育成本部 田中 久也 氏		
TR-B03	15:30-16:30	国際会議場1階 101会議室
CCSF(共通キャリア・スキルフレームワーク) 活用による人材育成事例		
【スピーカー】 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会 副委員長 (株式会社インフォテック・サーブ代表取締役) 木田 徳彦 氏		
TR-C01	15:30-17:00	国際会議場2階 201会議室 同時通訳
Market growth highlights in Consumer Electronics & 4K market outlook.		
15:30-16:10 Worldwise Consumer Electronics Market Review		
16:20-17:00 4K: Assessing the opportunity for CE vendors		
【スピーカー】 Mr. Simon Bryant Senior Analyst Consumer Electronics Futuresource Consulting Ltd		

■ インダストリシステムセッション JEITA

10.2水		
IS-A01	10:00-11:00	国際会議場3階 302会議室
スマート社会のセキュリティ		
【スピーカー】 独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター 情報セキュリティ技術ラボラトリー 主任 中野 学 氏		
コンシューマデバイスの安全を目指して		
【スピーカー】 独立行政法人 情報処理推進機構 技術本部ソフトウェア 高信頼化センター ソフトウェアグループ 研究員 内田 功志 氏		
IS-B01	10:00-11:00	国際会議場3階 303会議室
義務教育のプログラミング教育を考える		
【スピーカー】 株式会社アフレコ 事業企画室 室長 渡辺 登 氏		
IS-A02	11:30-12:30	国際会議場3階 302会議室
カセットハードディスク時代の到来 - iVDR		
【スピーカー】 一般社団法人 iVDRコンソーシアム 会長 釘屋 文雄 氏		
IS-B02	11:30-12:30	国際会議場3階 303会議室
エネルギー効率改善のための連携制御 - 概要 -		
【スピーカー】 富士電機株式会社 技術開発本部 製品技術研究所 制御技術開発センター 需要家ソリューション開発部 マネージャ 松井 哲郎 氏		
エネルギー効率改善のための連携制御 - 適用事例 -		
【スピーカー】 横河電機株式会社 IAマーケティング本部 グリーンファクトリー推進室 エネルギー効率標準化推進課 大内 俊之 氏		
IS-A03	13:00-14:00	国際会議場3階 302会議室
ISO/IEC DIS 17629 FPOT(1頁印刷時間)測定標準 ープリンター省エネ動向にも関連してー		
【スピーカー】 JEITA プリンター専門委員会 FPOT-WG 主査 キヤノン株式会社 映像事務機EPシステム第一技術開発部 映像事務機EPシステム第11技術開発室 谷川 耕一 氏		
IS-B03	13:00-14:00	国際会議場3階 303会議室
監視IPカメラ/クラウド型監視システム利用状況		
【スピーカー】 JEITA 監視カメラシステム専門委員会 委員長 日本電気株式会社 交通・公共ネットワーク事業部 第二開発部 主任 嶋美 豊和 氏		
IS-A04	14:30-15:30	国際会議場3階 302会議室
ITトレンド調査報告・ビッグデータ、クラウドの取り組み		
【スピーカー】 JEITA ITプラットフォーム事業委員会 委員長 村野井 剛 氏 プラットフォーム企画専門委員会 委員長 石橋 賢一 氏 ネットワークストレージWG 主査 岸本 哲哉 氏		

IS-B04	14:30-15:30	国際会議場3階 303会議室
サイバーフィジカルとメニーコアが創出するイノベーション		
【スピーカー】 名古屋大学 大学院情報科学研究科 並列分散システム研究室 講師 加藤 真平 氏		
IS-A05	16:00-17:00	国際会議場3階 302会議室
組込み系ソフトウェア開発の課題分析と提言 ～日本の組込み開発を成功に導くアーキテクトとは?～ (JEITA調査結果報告)		
【スピーカー】 沖電気工業株式会社 ソリューション&サービス事業本部 ソフトウェアセンタ 技術部 ソフトウェアエンジニアリングチーム シニアスペシャリスト 五味 弘 氏 株式会社東芝 コミュニティ・ソリューション社 放送・ネットワークシステム部 放送・ネットワークソフトウェア担当 参事 金子 博 氏		
IS-B05	16:00-17:00	国際会議場3階 303会議室
人環境で行動するロボットの長時間実世界処理		
【スピーカー】 独立行政法人 産業技術総合研究所 デジタルヒューマン工学研究センター 副研究センター長 加賀美 聡 氏		
10.4金		
IS-C01	13:00-14:30	国際会議場3階 304会議室
M2Mの最新動向について ～富士通のネットワークサービスの取組みを踏まえ～		
【スピーカー】 富士通株式会社 ネットワークサービス事業本部 ネットワークフロントセンター ビジネスプロモート部 部長 大澤 達哉 氏		

■ 規格・標準化・認証制度セッション

10.2水		
ST-1	10:00-12:00	国際会議場3階 304会議室
我が国における技術基準認証制度の最新動向		
【スピーカー】 総務省 総合通信基盤局 電気通信事業部 電気通信技術システム課 課長補佐 柴田 輝之 氏 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 電波環境推進官 小笠原 通晴 氏 総務省 総合通信基盤局 電波部 電波環境課 課長補佐 水落 祐二 氏 一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会 適合性評価委員会 委員長 (京セラ株式会社) 山本 慶和 氏		
ST-2	12:30-13:30	国際会議場1階 101会議室
ソフトウェア品質の見える化「PSQ認証制度」		
【スピーカー】 一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事 パッケージソフトウェア品質認証制度委員会 委員長 (日本ナレッジ株式会社 代表取締役社長) 藤井 洋一 氏		
ST-3	14:00-16:35	国際会議場3階 304会議室
JEITA 国際戦略・標準化セミナー ー企業の事業戦略と標準化ー 我が国における国際標準化の取組み		
【スピーカー】 経済産業省 産業技術環境局 情報電気標準化推進室 室長 辻本 崇紀 氏		
国際標準化の重要な役割と企業の事業戦略		
【スピーカー】 パナソニック株式会社 R&D本部 顧問 (IEC MSB日本代表委員) 榎木 好明 氏		
電子書籍の普及と標準化国際戦略ー標準化はなぜビジネスに必要なのか		
【スピーカー】 専修大学 文学部 教授 (IEC TC100/TA10電子出版標準化分科会国際議長) 植村 八潮 氏		
クルマとモバイル機器間のインタフェースの現状と標準化		
【スピーカー】 株式会社トヨタIT開発センター 開発・調査部 グループリーダー 円満宇 大輔 氏		

■ モバイルセッション

10.2水		
MB-1	12:30-13:30	国際会議場3階 304会議室
MCPC/CIAJ共催セミナー 『持ち出しデバイスの安全・安心を考える』パネル討論会		
【パネリスト】 株式会社リックテレコム 月刊テレコミュニケーション記者 藤井 宏治 氏 株式会社NTTドコモ 第一法人営業部 第四営業 上原 宏 氏 ワンビ株式会社 代表取締役社長 加藤 貴 氏 富士通株式会社 ユビキタスビジネス戦略本部 クライアントソリューション統括部 濱田 圭 氏 日本電気株式会社 システムソフトウェア事業部(セキュリティグループ) ソフトウェアプロダクトプランナー 安達 智雄 氏		
【モデレータ】 MCPCモバイルコンピューティング推進コンソーシアム MCPCモバイルセキュリティ委員長 山澤 昌夫 氏		

10.3木		
MB-2	12:30-13:30	国際会議場3階 301A会議室
2013年度携帯電話の利用実態調査 “スマートフォンが広く浸透。利用実態にも変化が!”		
【スピーカー】 一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会 CIAJ移動通信委員会・調査企画WG 主査 カシオ計算機株式会社 秘書渉外部 渉外グループ 担当課長 山田 浩 氏 株式会社シードプランニング 主任研究員/コンサルタント 杉本 明彦 氏		
10.4金		
MB-3	11:00-12:00	国際会議場3階 301A会議室
HTML5と最新動向		
【スピーカー】 株式会社オープンウェブ・テクノロジー 代表取締役 白石 俊平 氏		
MB-4	12:30-13:30	国際会議場3階 301A会議室
Glassware(Google Glassアプリ)開発の 指南と開発事例		
【スピーカー】 株式会社トップゲート システムソリューション事業本部 ITアーキテクト 若命 全洋 氏		
MB-5	14:00-15:00	国際会議場3階 301A会議室
インテルのHTML5への取り組みと アプリケーション開発ツールのご紹介		
【スピーカー】 インテル株式会社 ソフトウェア&サービスグループ ソフトウェアエンジニア 我妻 慎太郎 氏		
MB-6	15:30-16:30	国際会議場3階 301A会議室
モダンなウェブをモダンなツールで創ろう!		
【スピーカー】 アドビ システムズ 株式会社 デジタルメディア部 ワールドワイドエ/ンジェリズム クリエイティブクラウド エバンジェリスト ホール アンディ 氏		

■ 新技術・新製品セミナー

10.1火		
NW-01	11:00-12:00	展示ホール3
電子版を使った新しいミクロ報道		
【スピーカー】 株式会社日本経済新聞社 デジタル編成局 編成部 磯貝 高行 氏		
NW-02	12:30-13:30	展示ホール3
温もりを遠くに伝えるサーモティクス		
【スピーカー】 慶應義塾大学 理工学部 システムデザイン工学科 桂研究室 桂 誠一郎 氏		
NW-03	14:00-15:00	展示ホール3
通信・放送分野における新技術の標準化動向		
【スピーカー】 一般社団法人 電波産業会 企画国際部長 鳥越 祐之 氏		
NW-04	15:30-16:30	展示ホール3
米国放送分野における新技術の標準化動向		
【スピーカー】 Ms. Barbara H. Lange Executive Director The Society of Motion Picture and Television Engineers (SMPTE)		
10.2水		
NW-05	11:00-12:00	展示ホール3
音声インターフェース(VUI)のエンベディッド化		
【スピーカー】 株式会社VESTECJAPAN 代表取締役 ズーヘル カーン 氏		
NW-06	12:30-13:30	展示ホール3
カラーセンサソリューションの紹介		
【スピーカー】 amsジャパン株式会社 フィールドアプリケーションエンジニア 田内 彰二 氏		
NW-07	14:00-15:00	展示ホール3
画像認識処理のシステム化実装に関する将来展望		
【スピーカー】 株式会社レイトロン 大阪大学大学院 情報科学研究科 教授 尾上 孝雄 氏		
NW-08	15:30-16:30	展示ホール3
ジェスチャー認識技術とその応用		
【スピーカー】 オムロン株式会社 AOC事業推進部 SD開発課 山下 隆義 氏		
10.3木		
NW-09	11:00-12:00	展示ホール3
次世代車載インフォテインメントシステムデザイン		
【スピーカー】 Suntec Software (Shanghai) Co.,Ltd 車載電子技術開発部 王 嘯鷹 氏		
NW-10	12:30-13:30	展示ホール3
熱設計の最新技術動向～面実装抵抗器の新しい温度管理手法～		
【スピーカー】 KOA株式会社 技術顧問 (株式会社サーマルデザインラボ 代表取締役) 国澤 尚樹 氏 KOA株式会社 ものづくりエンジニアティブ 技術センター 平沢 浩一 氏		

NW-11	14:00-15:00	展示ホール3
4Kソリューション:ローデ・シュワルツからの提案		
【スピーカー】ローデシュワルツ・ジャパン株式会社 マーケティング部 谷津 弦也 氏		
NW-12	15:30-16:30	展示ホール3
30万円で実現する進化しつづけるペーパーレス会議とは？		
【スピーカー】株式会社 システムテクノロジー代表取締役社長 兼 最高執行役員 松岡 秀紀 氏		
10.4 金		
NW-13	11:00-12:00	展示ホール3
ライフログから抽出される関係性から 未来の価値を予測する技術		
【スピーカー】京大、電通大、神戸デジタル・ラボ研究開発チーム 新熊 亮一 氏		
NW-14	12:30-13:30	展示ホール3
QIで広がるワイヤレス充電の世界		
【スピーカー】ワイヤレスパワー Consortium		
株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン 知的財産・システム標準本部 システム標準部 部長 黒田 直祐 氏		
株式会社 東芝 セミコンダクター&ストレージ社 電子デバイス&ストレージ営業センター 技術マーケティング部 新市場開拓推進担当 参事 沼田 健二 氏		
スペックコンピュータ株式会社 吉岡 裕 氏		
NW-15	14:00-15:00	展示ホール3
高周波回路の動作を理解する4つのステップ ー これで電磁界シミュレータなんて要らない ー		
【スピーカー】有限会社ソネット技研 石飛 徳昌 氏		
NW-16	15:30-16:30	展示ホール3
雑音に強いオートノマス音声認識の技術動向		
【スピーカー】株式会社レイトロン 北海道大学大学院 情報科学研究科 教授 宮永 喜一 氏		

電子部品・デバイスセッション

10.3 木		
EC	14:00-16:20	国際会議場3階 301A会議室
第10回 JEITA電子材料セミナー「蓄電池戦略の 推進とリチウムイオン電池における技術開発動向」 【NEDO】における蓄電池技術開発		
【スピーカー】新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) スマートコミュニティ部・蓄電池技術開発室長 細井 敬 氏		
【定置用リチウムイオン電池の寿命予測と劣化解析に基づく高信頼化技術】 【スピーカー】株式会社日立製作所 日立研究所 材料研究センター 電池研究部 部長 板橋 武之 氏		
【車載用リチウムイオン電池の技術開発】 【スピーカー】株式会社GSユアサ 研究開発センター 第5開発部 部長 佐々木 文 氏		

コンシューマプロダクツセッション

10.3 木		
CP-01	10:30-12:05	国際会議場1階 101会議室
JEITA CE部会セミナー2013 ～放送と通信のスマートネットワーク～		
10:35-11:05 ハイブリッドキャストの最新状況 【スピーカー】日本放送協会(NHK) メディア企画室 副部長 藤沢 寛 氏		
11:05-11:35 放送と通信を結ぶTVメタデータによる日本版スマート TVモデルとビッグデータ解析によるサービス展開 【スピーカー】株式会社エム・データ 戦略企画 取締役 薄井 司 氏		
11:35-12:05 超高齢社会におけるスマートプラチナ産業の展望 【スピーカー】株式会社三菱総合研究所 情報通信政策研究本部 本部長 中村 秀治 氏		
10.4 金		
CP-02	10:30-12:00	国際会議場1階 101会議室
JEITA 次世代車載機セミナー ～安心で豊かな カーライフを実現する次世代車載機の将来技術を考える～ 次世代車載機セミナー開催にあたり		
【スピーカー】次世代カー・エレクトロニクス研究会 主査 (パイオニア株式会社) 安藤 斉 氏		
準天頂衛星利用促進計画		
【スピーカー】一般財団法人衛星利用利便推進センター 利用促進推進プロジェクトリーダー 松岡 繁 氏		
車載機器のヒューマンインターフェイスとドライバ・ディストラクション		
【スピーカー】独立行政法人産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジ研究部門長 赤松 幹之 氏		
車載Ethernetの展望と取り組み		
【スピーカー】株式会社デンソー 基盤ハードウェア開発部 車載通信技術開発室 開発1課 課長 岸上 友久 氏		

環境セッション

10.3 木		
ENV	10:00-12:00	国際会議場3階 304会議室
工場・ビル等の省エネ/節電対策セミナー		
10:00-10:40 エネルギー政策の最新動向について 【スピーカー】経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー部 省エネルギー対策課 係長		
10:40-11:20 アズビルの省エネ/節電ソリューションのご紹介 【スピーカー】アズビル株式会社 ビルシステムカンパニーマーケティング部 事務 高石 知治 氏		
11:20-12:00 富士通グループの省エネ/節電対策について 【スピーカー】富士通株式会社 環境本部 グリーンマネジメント総務部マネージャー 石川 鉄二 氏		

HATS・アクセシビリティセッション

10.4 金		
HA-1	12:30-13:30	国際会議場1階 101会議室
アクセシビリティセミナー2013 ー情報通信アクセス協議会ー 企業のWeb担当者、 Web制作者必見! 企業Webサイトにおける JIS X 8341-3:2010対応の実践例		
【スピーカー】日本電機株式会社 生産本部 デザイン戦略・商品企画グループ エキスパート 安 浩子 氏 キヤノンマーケティングジャパン株式会社 コミュニケーション本部 ウェブマーケティングセンター ウェブマネジメントグループ チーフデザイナー 澤田 望 氏 株式会社インフォアクシア 代表取締役 植木 真 氏		
HA-2	13:45-15:00	国際会議場1階 101会議室
アクセシビリティセミナー2013 ー情報通信アクセス協議会ー パネルディスカッション 「マルチデバイス時代のWebアクセシビリティ」 ～Webアクセシビリティのこれからを読み解く～		
【パネリスト】日本マイクソフト株式会社 デベロッパー&プラットフォーム統括本部 エマージングテクノロジ推進部 UX&バリエーリスト 春日井 良隆 氏 慶應義塾大学 SFC研究所 W3C オープンウェブプラットフォーム 技術・広報主任 デイビス ダニエル 氏 株式会社インフォアクシア 代表取締役 植木 真 氏 慶應義塾大学 大学院政策・メディア研究科 特任研究助教 中根 雅文 氏		
【モデレータ】株式会社ミツエーリンクス 取締役 木達 一仁 氏		
HA-3	15:30-16:30	国際会議場1階 101会議室
最近のHATSにおけるトピックスの紹介 ーHDTV会議、10G-EPON等ー		
通信機器の相互接続性確保に向けて ー高度通信相互接続推進会議(HATS)の最近の活動についてー		
【スピーカー】HATS推進会議 沖電気工業株式会社 通信システム事業本部 統括部長 高呂 賢治 氏		
HDTV会議議決の相互接続性確保に向けた取り組み		
【スピーカー】HATS推進会議 日本電信電話株式会社 サービスエボリューション研究所 主席研究員 如澤 裕尚 氏		
マルチベンダ環境下における10G-EPON装置相互接続試験実施に向けた取り組み		
【スピーカー】HATS推進会議 日本電信電話株式会社 NITTAアクセスサービスシステム研究所 光アクセスシステムプロジェクト フルサービスアクセスグループ 主幹研究員、グループリーダー 鈴木 謙一 氏		

電子情報通信学会

10.3 木		
◆IEICE東京支部 IEICE東京支部		
14:00-18:00 国際会議場3階 303会議室		
SDNとNFV技術を活用した ネットワーク仮想化最先端技術動向		
◆研究会 コンピュータ・システム研究専門委員会		
9:00-17:00 国際会議場3階 301B会議室		
ユーザを支えるコンピューティング及び一般 ーパーソナル機器からスマートシティまでー		
◆研究会 パターン認識・メディア理解研究専門委員会		
14:00-17:50 国際会議場3階 302会議室		
大規模データとパターン認識・メディア理解、地球をとらえる		
◆研究会 知的環境とセンサネットワーク研究専門委員会		
10:00-13:00 国際会議場3階 303会議室		
知的環境が実現する社会生活基盤 ー医療、健康、スポーツとビッグデーター		

10.4 金		
◆研究会 ICTスマートグリッド技術時限研究専門委員会		
10:00-13:00 国際会議場3階 301B会議室		
次世代ICTスマートグリッドによる 持続可能社会の実現へ向けて		
◆研究会 電子ディスプレイ研究専門委員会		
13:00-17:00 国際会議場3階 303会議室		
電子ディスプレイシンポジウム ータッチパネルのすべてー		

◆研究会 パターン認識・メディア理解研究専門委員会		
13:30-18:10 国際会議場3階 302会議室		
大規模データとパターン認識・メディア理解、 地球をとらえる		
◆研究会 人工知能と知識処理研究専門委員会		
14:00-17:30 国際会議場3階 301B会議室		
10年後の暮らしをスマートにする +αな価値を創るAI		

出展者セミナー

10.2 水		
ES-05	11:00-12:00	展示ホール2
iPadビジネス活用		
【スピーカー】エクスウェア株式会社 ITライフスタイル提供ユニット ユニット長 代田 淳平 氏		
ES-06	12:30-13:30	展示ホール2
中小企業の効果的なIT化の推進		
【スピーカー】株式会社エス・アイ・エス 代表取締役 齋藤 義則 氏		
ES-07	14:00-15:00	展示ホール2
無償リアルタイム・レンダラーを利用した 3Dデータの様々な利用形態		
【スピーカー】株式会社グラブス 取締役 営業部長 岡庭 義岳 氏		
10.3 木		
ES-09	11:00-12:00	展示ホール2
災害時に事業を継続するには		
【スピーカー】パソコンサポート屋 代表 永野 典明 氏		
ES-10	12:30-13:30	展示ホール2
企業間のコラボレーションを加速する Web捺印サービスBrownie for Stamper		
【スピーカー】ビジネスメンター株式会社 取締役(Sales&Marketing) 竹林 誠二 氏		
ES-11	14:00-15:00	展示ホール2
AR活用事例と関連技術の今		
【スピーカー】株式会社ブラージュ 代表取締役社長 磯 浩一郎 氏		
ES-12	15:30-16:30	展示ホール2
iPhone5Sの指紋認証やコンテンツ保護に 活躍するTrustzone		
【スピーカー】株式会社SELTECH 営業本部 シニアマネージャー 古賀 大吉 氏		

10.4 金		
ES-13	11:00-12:00	展示ホール2
高効率スイッチング電源回路の評価技術		
【スピーカー】テクトロニクス 営業統括本部 営業技術統括部 FAE部アプリケーションエンジニア 中門 哲士 氏		
ES-15	14:00-15:00	展示ホール2
高速・広帯域通信時代の最新ノイズ計測技術		
【スピーカー】テクトロニクス 営業統括本部 営業技術統括部 FAE部RFアプリケーションエンジニア 鹿取 俊介 氏		
ES-16	15:30-16:30	展示ホール2
高分解能磁気イメージング装置 ー電子部品、電池内部の電気の流れを 映像化非破壊故障解析ー		
【スピーカー】神戸大学 大学院理学研究科 木村研究室 木村 建二郎 氏		

10. 来場者数・来場者分析

(1) 来場者数

	10月1日(火)	2日(水)	3日(木)	4日(金)	5日(土)	合 計
国内登録来場者	13,406	20,969	26,869	34,039	18,667	113,950
海外登録来場者	197	323	289	401	177	1,387
登録プレス	1,035	191	191	223	110	1,750
出展関係者	5,573	5,114	4,725	4,670	4,179	24,261
合 計	20,211	26,597	32,074	39,333	23,133	141,348

(2) 来場者の属性

業 種	(%)
電子・情報通信機器メーカー・部門	16.9
電子部品・電子デバイスメーカー・部門	11.4
自動車・輸送機器メーカー	3.5
医療機器メーカー	0.7
機械・精密機器メーカー	5.8
その他メーカー	7.4
ソフトウェアメーカー・ソフトハウス・システムインテグレータ	4.7
通信サービス	3.2
インターネットサービス・Webコンテンツ	1.5
放送サービス・映像コンテンツ	2.8
情報処理・情報サービス	2.1
調査・コンサルティング	1.4
IT関連 貿易・商社	3.9
IT関連 流通・販売	2.1
エネルギー関連	0.7
金融・証券・保険	1.2
出版・広告・印刷	2.8
建設・不動産	1.4
その他サービス業	4.1
官公庁・団体	1.6
学校・研究・教育機関	2.0
その他業種	4.0
一般	7.4
学生	7.7

性 別	(%)
男性	90.0
女性	10.0

年 代	(%)
10才未満	0.1
10 ～ 19才	3.5
20 ～ 29才	17.6
30 ～ 39才	22.5
40 ～ 49才	26.9
50 ～ 59才	20.0
60 ～ 69才	7.6
70才以上	1.7

関心のあるステージ/ゾーン		(%)
ライフ&ソサエティステージ		42.6
キーテクノロジーステージ	半導体・デバイスゾーン	15.8
	電子部品ゾーン	18.0
	電池・原材料・装置ゾーン	7.4
ICT Suite/Electronics Suite	ICT Suite	9.6
	Electronics Suite	6.7

職 種	(%)
経営・管理・総務・経理	10.5
コンサルタント	1.7
購買・資材・バイヤー	1.8
研究・開発	17.4
システム管理・保守	1.7
エンジニア・設計・デザイン・クリエイティブ	12.1
生産・製造・検査	1.9
情報処理・オペレーション	0.8
調査・企画・マーケティング	8.9
広報・宣伝	1.1
営業・販売	19.6
その他の職種	5.6
一般	8.6
学生	8.3

職 制	(%)
経営者・役員	9.2
管理職	28.0
その他	62.8



(3) 来場者アンケート

会期終了後インターネットによるアンケートを実施しました。(有効回答 2,558名)
回答者を来場目的(ステージ)別に分類し、分析軸として集計しております。

	ライフ& ソサエティ ステージ	キー テクノロジ ステージ	ICT Suite / Electronics Suite	Lifestyle Innovation 2013	コンファレンス	TOTAL
どちらからいらっしゃいましたか						(%)
北海道	0.4	0.4	0.4	0.2	0.4	0.5
東北	2.1	2.3	2.3	2.0	2.3	2.0
埼玉県	10.0	9.5	9.5	9.8	10.7	9.8
千葉県	16.2	15.8	15.9	14.1	14.0	16.6
東京都	29.2	28.8	28.8	29.5	26.0	29.8
神奈川県	22.6	22.3	22.5	23.8	22.5	21.7
茨城県・栃木県・群馬県	4.6	5.1	5.8	5.4	4.5	4.7
甲信越・北陸	2.3	2.5	1.5	1.4	1.9	2.3
東海	4.8	4.9	5.0	6.0	6.4	4.8
近畿	5.6	5.8	5.5	5.5	8.3	5.8
中国	0.7	0.7	1.0	1.0	1.4	0.6
四国	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3
九州・沖縄	0.8	1.1	1.1	0.8	0.8	0.9
海外	0.2	0.3	0.3	0.1	0.4	0.3
過去の来場経験は(複数回答)						(%)
今回初めて来場した	23.4	22.7	25.3	27.2	25.0	22.8
12年(昨年)のCEATEC JAPAN 2012	47.9	46.4	46.1	46.1	50.1	47.4
11年(一昨年)のCEATEC JAPAN 2011	45.2	43.8	43.0	42.2	44.3	44.8
00年～10年のCEATEC JAPAN 2000～2010	52.7	53.2	51.1	50.4	51.5	52.7
99年以前の「エレクトロニクスショー」や「COM-JAPAN」	29.9	32.2	28.2	28.9	28.5	30.2
入場券の種類						(%)
招待券による登録	9.2	8.6	9.4	9.6	11.7	9.4
当日券の購入による登録	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1
土曜日(無料招待日)の簡易登録	1.8	1.9	1.6	1.8	1.4	1.8
公式Websiteによる事前登録	89.0	89.5	89.0	88.5	87.0	88.8
製品購入・導入への関与度						(%)
購入・導入に際して決定権がある	12.6	12.7	12.6	12.5	12.1	12.9
購入・導入に際して意見や指導を求められている	27.6	27.5	28.9	27.5	29.5	27.1
購入・導入に際して検討する情報を収集している	28.5	29.2	28.9	30.6	28.2	28.2
いずれも該当しない	31.2	30.6	29.6	29.3	30.2	31.7
商品・技術開発への関与度						(%)
商品・技術開発の方針を決定する	11.6	12.2	13.2	12.6	12.1	11.7
商品・技術開発に関し意見や指導を求められる	29.6	31.3	30.8	30.4	33.3	29.9
商品・技術開発に関し検討のための資料を収集する	25.5	26.4	25.3	24.8	27.1	25.4
当てはまる項目がない	33.3	30.1	30.7	32.2	27.5	33.0
来場目的						(%)
製品・技術の最新情報入手	86.6	87.9	87.8	88.5	87.6	85.7
業界の動向把握	77.0	78.1	78.6	79.3	84.7	76.7
競合他社の情報入手	21.8	23.7	21.9	23.0	21.4	21.8
導入検討の下調べ	9.0	10.3	10.3	10.2	10.9	9.0
商談	1.8	2.1	2.3	1.8	2.7	2.1
ビジネスルート開拓	5.3	6.3	7.0	6.8	5.2	5.6
取引先との交流・親交強化	5.8	6.7	6.6	6.8	6.6	6.1
一般的な興味・関心	53.6	53.3	55.8	57.5	51.1	52.1
その他	3.9	4.2	4.9	5.6	5.2	4.0

●来場目的毎の満足度は

	ライフ& ソサエティ ステージ	キー テクノロジ ステージ	ICT Suite / Electronics Suite	Lifestyle Innovation 2013	コンファレンス	TOTAL
製品・技術の最新情報入手						(%)
非常に満足した	21.7	21.5	22.2	22.1	21.4	21.3
やや満足した	56.7	57.6	56.6	56.7	59.4	56.7
どちらともいえない	13.5	13.0	13.4	13.3	11.7	13.7
やや不満だった	6.3	6.1	6.1	6.4	4.9	6.1
非常に不満だった	2.0	2.0	1.5	1.6	2.9	2.0
業界の動向把握						(%)
非常に満足した	20.9	20.4	21.9	22.0	24.6	20.5
やや満足した	57.2	58.0	56.2	56.7	57.0	57.0
どちらともいえない	15.7	15.7	15.9	14.8	12.5	16.2
やや不満だった	4.6	4.6	4.7	4.8	3.6	4.5
非常に不満だった	1.6	1.6	1.4	1.4	2.4	1.7
競合他社の情報入手						(%)
非常に満足した	10.3	10.3	10.2	9.6	8.6	10.1
やや満足した	29.0	29.4	28.2	28.2	26.4	29.2
どちらともいえない	44.9	44.9	46.1	46.1	50.9	44.7
やや不満だった	10.0	9.8	9.5	9.7	7.4	9.8
非常に不満だった	6.1	5.7	6.0	6.3	6.6	6.1
導入検討の下調べ						(%)
非常に満足した	9.0	8.8	8.9	9.0	7.8	9.0
やや満足した	19.9	20.5	19.9	18.5	19.3	20.0
どちらともいえない	52.8	53.3	53.5	54.6	56.0	53.0
やや不満だった	11.2	10.5	10.7	11.1	9.6	10.9
非常に不満だった	7.0	6.7	7.0	6.9	7.2	7.1
商談						(%)
非常に満足した	10.4	10.0	9.7	9.8	9.0	10.3
やや満足した	13.0	13.1	12.8	12.4	11.7	13.0
どちらともいえない	54.1	54.6	55.2	55.8	57.9	53.9
やや不満だった	12.5	12.4	12.3	12.2	11.7	12.4
非常に不満だった	10.0	10.0	9.8	9.9	9.6	10.2
ビジネスルート開拓						(%)
非常に満足した	10.4	9.9	9.7	9.7	8.8	10.2
やや満足した	15.4	16.3	16.7	15.6	15.4	15.9
どちらともいえない	51.9	52.0	52.0	53.2	54.8	51.8
やや不満だった	12.6	12.7	12.7	12.1	11.9	12.7
非常に不満だった	9.4	9.3	9.1	9.3	9.1	9.5
取引先との交流・親交強化						(%)
非常に満足した	10.8	10.9	10.7	10.8	9.6	10.9
やや満足した	19.6	20.5	20.0	18.9	21.5	19.8
どちらともいえない	48.9	48.8	49.2	50.8	50.4	48.9
やや不満だった	11.3	11.0	11.1	10.7	10.0	11.3
非常に不満だった	9.1	8.7	8.8	8.7	8.4	9.2
一般的な興味・関心						(%)
非常に満足した	27.4	27.2	27.3	29.1	28.7	26.6
やや満足した	48.6	48.5	49.6	48.4	50.8	48.9
どちらともいえない	14.0	14.6	13.7	13.6	12.0	14.6
やや不満だった	6.5	6.5	6.8	6.2	5.4	6.5
非常に不満だった	3.4	3.3	2.7	2.6	3.4	3.4

●見学した会場ごとの満足度

	ライフ& ソサエティ ステージ	キー テクノロジ ステージ	ICT Suite / Electronics Suite	Lifestyle Innovation 2013	コンファレンス	TOTAL
ライフ&ソサエティステージ						(%)
非常に満足した	15.4	15.1	15.0	16.6	15.2	15.4
やや満足した	52.8	52.2	53.5	53.8	56.7	52.8
どちらともいえない	21.4	21.8	22.5	20.8	20.1	21.4
やや不満だった	7.6	7.9	6.6	6.7	5.1	7.6
非常に不満だった	1.9	1.8	1.3	1.3	2.3	1.9
忘れた	0.9	1.1	1.2	0.9	0.6	0.9

※端数処理の都合上、上記の数値を合計しても100%にならないことがあります。



	ライフ& ソサエティ ステージ	キー テクノロジ ステージ	ICT Suite / Electronics Suite	Lifestyle Innovation 2013	コンファレンス	TOTAL
キーテクノロジステージ						(%)
非常に満足した	12.8	12.0	13.3	13.9	12.0	12.0
やや満足した	46.6	47.0	48.2	46.8	50.0	47.0
どちらともいえない	29.5	29.5	28.3	27.8	28.6	29.5
やや不満だった	6.7	6.6	6.3	7.3	6.4	6.6
非常に不満だった	1.2	1.2	1.1	1.2	1.3	1.2
忘れた	3.1	3.6	2.9	3.0	1.8	3.6
ICT Suite/Electronics Suite						(%)
非常に満足した	10.2	10.1	9.8	9.8	10.8	9.8
やや満足した	44.5	43.7	44.8	45.6	45.2	44.8
どちらともいえない	33.7	34.6	34.2	33.0	33.8	34.2
やや不満だった	7.7	7.4	7.6	7.7	7.4	7.6
非常に不満だった	1.1	1.1	1.0	1.2	0.9	1.0
忘れた	2.8	3.1	2.6	2.8	1.8	2.6
Lifestyle Innovation 2013						(%)
非常に満足した	12.0	11.4	11.3	11.7	11.5	11.7
やや満足した	49.0	47.5	49.9	49.2	51.5	49.2
どちらともいえない	30.3	31.5	30.1	30.4	29.5	30.4
やや不満だった	5.7	6.0	5.5	5.8	4.6	5.8
非常に不満だった	1.5	1.7	1.4	1.4	1.6	1.4
忘れた	1.6	1.8	1.8	1.5	1.3	1.5
コンファレンス						(%)
非常に満足した	22.8	21.7	21.8	23.3	23.1	23.1
やや満足した	45.7	45.9	44.3	43.3	45.8	45.8
どちらともいえない	18.4	19.9	21.2	20.0	18.4	18.4
やや不満だった	8.9	8.7	8.6	9.5	8.3	8.3
非常に不満だった	3.6	2.8	3.1	3.0	3.5	3.5
忘れた	0.6	1.0	0.9	1.0	0.8	0.8

●CEATEC JAPAN の印象は

	ライフ& ソサエティ ステージ	キー テクノロジ ステージ	ICT Suite / Electronics Suite	Lifestyle Innovation 2013	コンファレンス	TOTAL
IT・エレクトロニクス関連分野では日本を代表する展示会						(%)
そう思う	47.7	47.4	46.4	47.8	50.9	47.2
ややそう思う	37.4	37.2	38.9	37.0	35.0	37.3
どちらともいえない	9.0	9.3	9.1	9.2	7.2	9.3
あまりそう思わない	3.6	3.6	3.6	3.6	4.3	3.5
そう思わない	1.6	1.8	1.6	2.1	1.4	1.8
わからない	0.7	0.8	0.4	0.3	1.4	1.0
国内・海外情報を収集の場とし役立つ国際的展示会						(%)
そう思う	21.3	20.9	20.6	21.0	21.0	21.2
ややそう思う	37.4	37.6	37.6	35.9	38.3	37.2
どちらともいえない	23.9	23.3	25.2	24.5	23.5	23.8
あまりそう思わない	11.5	11.8	11.7	12.5	10.9	11.6
そう思わない	4.5	4.9	4.1	5.3	4.5	4.7
わからない	1.3	1.4	0.8	0.8	1.9	1.5
新しいライフスタイル、ビジネススタイルなど近未来の夢をはぐくむ展示会である						(%)
そう思う	29.4	28.8	28.4	29.3	29.7	28.7
ややそう思う	46.4	45.4	48.2	47.6	46.6	46.3
どちらともいえない	15.8	17.1	16.3	16.2	15.3	16.3
あまりそう思わない	6.1	6.0	5.1	5.2	6.2	6.0
そう思わない	2.0	2.2	1.8	1.8	1.6	2.2
わからない	0.3	0.5	0.1	0.0	0.6	0.6
直面する将来の課題(産学協同等)に役立つ						(%)
そう思う	15.2	15.6	15.4	15.4	16.9	15.0
ややそう思う	36.8	36.3	38.8	38.8	37.9	36.5
どちらともいえない	31.5	31.7	31.3	31.9	29.7	31.8
あまりそう思わない	11.6	11.5	10.4	9.8	11.1	11.5
そう思わない	2.9	3.0	2.9	2.8	2.7	2.9
わからない	1.9	1.9	1.3	1.3	1.7	2.2

	ライフ& ソサエティ ステージ	キー テクノロジ ステージ	ICT Suite / Electronics Suite	Lifestyle Innovation 2013	コンファレンス	TOTAL
出展者と来場者の関係構築が各種場面で活用できる						(%)
そう思う	11.8	12.3	12.3	12.0	11.3	11.7
ややそう思う	34.5	34.9	36.0	36.5	36.5	33.9
どちらともいえない	33.5	33.2	33.6	33.7	33.6	33.8
あまりそう思わない	12.2	12.0	11.2	10.7	11.8	12.2
そう思わない	3.7	3.8	3.3	3.3	2.7	3.8
わからない	4.3	3.9	3.6	3.7	4.1	4.5
多様な分野、または最新の製品・技術情報が得られる						(%)
そう思う	33.1	33.0	33.1	33.7	33.4	32.6
ややそう思う	48.4	48.0	49.6	48.1	47.4	48.2
どちらともいえない	12.4	12.8	11.9	12.7	12.4	12.9
あまりそう思わない	4.1	4.3	3.8	3.5	3.9	4.1
そう思わない	1.4	1.3	1.4	1.5	2.3	1.5
わからない	0.7	0.6	0.3	0.4	0.6	0.8
業界や主要企業の方向性や動向が一堂に把握できる						(%)
そう思う	27.9	27.8	28.3	28.5	29.7	27.6
ややそう思う	49.0	48.3	49.5	49.3	48.7	48.6
どちらともいえない	15.9	16.9	15.9	15.9	14.2	16.5
あまりそう思わない	4.9	4.8	4.4	4.3	4.3	4.8
そう思わない	1.4	1.5	1.3	1.3	2.1	1.5
わからない	0.9	0.7	0.7	0.7	1.0	1.1
スマートイノベーションを牽引する展示会						(%)
そう思う	17.8	17.2	18.7	19.0	19.4	17.0
ややそう思う	38.7	38.6	41.4	41.1	39.2	39.1
どちらともいえない	30.4	31.2	28.4	29.0	30.1	30.4
あまりそう思わない	7.3	7.1	6.5	5.5	5.2	7.3
そう思わない	2.8	3.0	2.9	2.7	3.3	2.9
わからない	3.0	2.8	2.1	2.7	2.7	3.2
今後の製品購入・発注などに役立つ展示会						(%)
そう思う	12.7	12.9	11.7	12.4	11.1	12.4
ややそう思う	33.7	34.0	33.6	32.1	36.7	33.8
どちらともいえない	35.2	34.7	36.5	37.3	35.5	35.0
あまりそう思わない	9.3	9.4	9.8	9.8	8.2	9.5
そう思わない	2.3	2.5	2.3	2.0	1.9	2.5
わからない	6.7	6.6	6.2	6.4	6.6	7.0
今後の製品・技術開発に役立つ展示会						(%)
そう思う	17.7	18.0	17.5	17.0	17.5	17.8
ややそう思う	45.3	46.2	46.1	46.5	45.4	45.0
どちらともいえない	25.3	25.0	25.8	25.8	25.0	25.5
あまりそう思わない	5.3	5.1	5.2	4.9	5.4	5.3
そう思わない	1.6	1.4	1.7	1.7	1.9	1.6
わからない	4.8	4.2	3.7	4.1	4.7	4.8
新しいビジネスルート開拓に役立つ展示会						(%)
そう思う	11.1	11.3	11.2	11.2	10.5	11.1
ややそう思う	29.7	31.3	32.3	30.7	33.4	30.5
どちらともいえない	38.4	37.7	37.5	39.1	36.1	37.5
あまりそう思わない	10.4	9.5	9.5	9.2	9.5	10.3
そう思わない	3.0	3.1	2.9	3.2	3.1	3.1
わからない	7.3	7.1	6.6	6.6	7.4	7.5

	ライフ& ソサエティ ステージ	キー テクノロジ ステージ	ICT Suite / Electronics Suite	Lifestyle Innovation 2013	コンファレンス	TOTAL
総合満足度						(%)
非常に満足した	19.6	19.3	20.8	20.3	21.6	19.0
やや満足した	57.8	57.9	57.8	57.3	60.4	58.0
どちらともいえない	9.7	10.1	9.1	10.0	7.8	10.3
やや不満だった	10.6	10.5	10.6	10.7	8.2	10.5
非常に不満だった	2.3	2.1	1.7	1.7	2.1	2.2
来場意向						(%)
多分来場するだろう	73.9	73.9	72.4	73.7	75.3	73.7
その時にならないとわからない	24.7	24.8	26.4	25.6	22.9	24.8
多分来場しないだろう	1.4	1.3	1.2	0.7	1.7	1.5

※端数処理の都合上、上記の数値を合計しても100%にならないことがあります。

11. 広報・宣伝

(1) 報道発表

- ① 出展募集開始告知リリース配信(2月7日)
- ② 開催概要発表リリース(7月18日)
- ③ 開催発表記者会見実施(9月18日／大手町 サンケイプラザ)
- ④ メディアコンベンション

本年初の試みとして実施した、メディアコンベンション(9月30日 15時から19時)には405名のプレスの来場があった。実施の結果、開催前日からTV、新聞、Web等で数多く報道された。

- ⑤ CEATEC AWARD 2013「総務大臣賞」「経済産業大臣賞」決定リリース配信(10月1日)
- ⑥ CEATEC AWARD 2013 各部門グランプリ・準グランプリ決定リリース配信(10月2日)
- ⑦ 終了報告リリース配信(10月5日)

(2) CEATEC JAPAN 2013公式Website出展者プレスリリース掲載数

日本語:28件、英語:4件 ※平成25年10月31日現在

(3) CEATEC JAPANプレスリリース配信サービス利用件数

日本語:17件、英語(その他欧米言語含む):14件、中国語:9件

(4) プレス登録者数

- ① 開催発表記者会見実施(9/18) 158名
- ② メディアコンベンション(9/30) 405名
- ③ 来場登録(10/1～10/5) 1,750名(うち海外78名)

(5) 印刷媒体掲載記事数

	記事数
開催前	184件
開催中	339件
開催後	170件
出展者・他	219件
計	912件

※2013年11月22日現在

(6) Web記事掲載数

	記事数
国内発信	5,800件
海外発信	7,253件
合計	13,053件

※2013年4月～10月

(7) 国内記事掲載(会期中の主な掲載実績)

掲載日	媒体名	記事タイトル・掲載内容
10月1日(火)	日本経済新聞	電機「買い車」に活路 見本市「シーテック」きょう開幕 部品大手 安全競う
	朝日新聞	主役は電子部品 狙いはスマホと電気自動車 最新家電・IT展「シーテック」
	毎日新聞(大阪)	CEATECきょう開幕「4Kテレビ」に注力
	読売新聞	車とIT連携強化 シーテックきょう開幕 自動運転者お目見え
	読売新聞(大阪)	「スマート家電」充実 シーテックきょう開幕 テレビは「4K」中心
	読売新聞(千葉)	千葉でデジタル家電展 シーテック 企業進出促進へアピール
	産経新聞	ITの未来見えた シーテックきょう開幕
	産経新聞	TV高付加価値戦略 ソニー・パナが4K有機EL CEATEC開幕
	サンケイエクスプレス	CEATECきょう開幕「4K」活況 高付加価値で巻き返せ
	聖教新聞	アジア最大級の家電見本市 シーテックきょう開幕
	スポーツ報知	幕張メッセで最新IT展示
	全国地方紙(共同配信)	新型ディスプレイに注目 シーテックきょう開幕
	全国地方紙(時事配信)	シーテックきょう開幕 アジア最大級の家電見本市
	日経産業新聞	次世代は宝の山 電子部品各社に大きな商機
	日経産業新聞	CEATECきょう開幕「ウェアラブル」ドコモ出展
	日経産業新聞	CEATEC2013 スマホよりロボカー 次世代車は宝の山
	日刊工業新聞	「スマートイノベーション」テーマ587社出展 シーテックきょう開幕
	フジサンケイビジネスアイ	4K+有機ELで巻き返し シーテックきょう開幕
	電波新聞	CEATECきょう開幕 スマートな社会構築へ各社が最先端の製品・技術
	専門業界各紙	幕張でシーテック開幕 スマートイノベーション 他
日本経済新聞(夕)	見本市「シーテック」開幕 テレビ、「4K」競う ドコモが眼鏡型機器	
朝日新聞(夕)	医療も車も最先端 シーテック開幕	
毎日新聞(夕)	つながる車と家電 シーテック開幕	
産経新聞(大阪・夕)	シーテックジャパン開幕 気分はターミネーター? 眼鏡型端末も登場	
東京新聞(夕)	次世代カー各社が競う シーテック開幕	
東京新聞(夕)	自動運転車に熱視線 シーテック開幕	
10月2日(水)	日本経済新聞	50型以上TV 過半4Kに
	朝日新聞	シーテック カーブも追い越しも「自動」 日産、未来の車を公開
	毎日新聞	シーテック開幕 人と家電 スマホ結び
	読売新聞(大阪)	次世代カーに脚光 シーテック開幕「家電見本市」様変わり
	産経新聞	「買い家電」アピール「シーテック」開幕
	東京新聞	自動車と電機「融合」開幕シーテック、IT駆使
	サンケイエクスプレス	シーテック開幕 4Kテレビ、自動運転車に注目
	聖教新聞	家電・IT見本市 シーテック開幕 目玉は身体装着型端末
	世界日報	シーテックが開幕 身体装着型端末にも注目
	しんぶん赤旗	アジア家電一堂に 千葉でシーテック
	The Japan Times	CARE CHAIR Ceatec, Asia's largest electronics trade show...
	The Japan News	Carmakers at center stage at info tech trade show
	全国地方紙(共同配信)	最新ITと自動車融合 展示会シーテックが開幕
	日経産業新聞	CEATEC2013「4K」機能競う
	日経産業新聞	CEATEC2013 ウェアラブル部品の晴れ舞台
	日経産業新聞	CEATEC2013 スムーズさ普通車と同じ
	日刊工業新聞	シーテック開幕 587社出展
	日刊工業新聞	シーテック2013「つながる車」楽しさ追求 安全・安心の技術も進化
	日刊工業新聞	シーテック2013(上) 復活電機産業 スマートハウス
	日刊工業新聞	電機とのコラボ シーテック期待
日刊工業新聞(大阪)	シーテックジャパン開幕 ウェアラブルに商機 メガネ・腕時計型情報端末	

(9) 海外テレビ放映(主な放映実績及び放送予定)

●全世界: BBC WORLD (英国時間) 注: アジア(日本も)を含みます。

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
10月2日(水)	BBC WORLD	"Live" News by LJ (reporter)	11:30 -	4'00
	BBC WORLD	"Live" News by Spenser (reporter)	15:30 -	3'52
10月19日(土)	BBC WORLD	"Click" (CEATEC 2013)	08:30 - 09:00	15'22
	BBC WORLD	"Click" (CEATEC 2013) (再放送)	16:30 - 17:30	15'22
10月20日(日)	BBC WORLD	"Click" (CEATEC 2013) (再放送)	04:30 - 05:00	15'22
	BBC WORLD	"Click" (CEATEC 2013) (再放送)	13:30 - 14:00	15'22

クリック(Click)は、英国放送協会(BBC)が、BBC2、BBC News Channel/Breakfast で英国国内に向けて、また BBC World で世界各地に向けて放送している大変人気の高いIT情報番組である。BBCのWebサイトではビデオ・オン・デマンド方式で番組のダイジェストが無料配信されており、世界中でいつでも番組を視聴できる。

●全世界: NHK WORLD/jitv (Japan International Broadcasting Television) (日本時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
11月18日(月)	NHK WORLD/jitv	"Great Gear"	23:30 - 23:58	12'12
11月19日(火)	NHK WORLD/jitv	"Great Gear" (再放送)	03:30 - 03:58	12'12
	NHK WORLD/jitv	"Great Gear" (再放送)	07:30 - 07:58	12'12
	NHK WORLD/jitv	"Great Gear" (再放送)	11:30 - 11:58	12'12
	NHK WORLD/jitv	"Great Gear" (再放送)	15:30 - 15:58	12'12
	NHK WORLD/jitv	"Great Gear" (再放送)	19:30 - 19:58	12'12

1) JIB (Japan International Broadcasting Inc.) は24時間放送(英語)でNHKから全世界へ放映される。
2) NHK World/jitv は全世界に約130ヶ国・地域、1,564億視聴世帯(米国: 533万世帯、欧州: 8,234万世帯、中東・アフリカ: 4,183万世帯、オセアニア: 42万世帯、アジア: 1,538万世帯に放送を届けている(2012年4月調べ)。

●米国: KTLA-5 (ロサンゼルス) ネットワーク

放送日	放送局	番組名	放映エリア(主要都市)	放映時間
10月2日(水) *生中継含む	KTLA5	Good Day LA	Los Angeles, CA	3'10 x 3
	CW33 / KDAF	Eye Opener DFW	Dallas/Fort Worth, TX	3'10 x 2
	CW39	Eye Opener	Houston, TX	3'10 x 2
	CW39	Eye Opener	Miami, FL	3'10 x 2
	CW11	Eye Opener	St. Louis, MO	3'10 x 2
	FOX2	FOX2 News in the Morning	St. Louis, MO	3'10 x 2
	FOX13	FOX13 News Good Day Utah	Salt Lake City, UT	3'10 x 2
	FOX59	FOX59 Morning News	Indianapolis, IN	3'10 x 2
	FOX61 / WDSI	FOX CT Morning Show	Hartford, CT	3'10 x 2
	WXMI / FOX17	FOX17 Morning News	Grand Rapids, MI	3'10 x 2
	KWGN / Cw2(ch-2)	Daybreak	Denver, CO	3'10 x 2
	CW11	PIX Morning News	New York, NY	3'10 x 2
	CLTV	ChicagoLand News	Chicago, IL	3'10 x 2
	MGN	Morning News	Chicago, IL	3'10 x 2
	Freedom 43	Rise & Shine	Oklahoma City, OK	3'10 x 2
	NBC4	Today	Oklahoma City, OK	3'10 x 2
	WITI / FOX6NOW	Wake-Up News	Milwaukee	3'10 x 2
	KSWB / FOX5	Morning News	San Diego	3'10 x 2
	KCPQ / Q13FOX	Q13FOX News This Morning	Seattle	3'10 x 2
	KTXL / FOX40	FOX40 Live	Sacramento	3'10 x 2
	WGNO / ABC26	Morning News	New Orleans	3'10 x 2
	WJW / FOX8	FOX8 News	Cleveland	3'10 x 2
10月4日(金)	KTLA5	Good Day LA	Los Angeles	2'40 x 3
	CW33 / KDAF	Eye Opener DFW	Dallas/Fort Worth, TX	2'40 x 2
	CW39	Eye Opener	Houston, TX	2'40 x 2
	CW39	Eye Opener	Miami, FL	2'40 x 2
	CW11	Eye Opener	St. Louis, MO	2'40 x 2
	FOX2	FOX2 News in the Morning	St. Louis, MO	2'40 x 2
	FOX13	FOX13 News Good Day Utah	Salt Lake City, UT	2'40 x 2
	FOX59	FOX59 Morning News	Indianapolis, IN	2'40 x 2
	FOX61 / WDSI	FOX CT Morning Show	Hartford, CT	2'40 x 2
	WXMI / FOX17	FOX17 Morning News	Grand Rapids, MI	2'40 x 2
	KWGN / Cw2(ch-2)	Daybreak	Denver, CO	2'40 x 2
	CW11	PIX Morning News	New York, NY	2'40 x 2
	CLTV	ChicagoLand News	Chicago, IL	2'40 x 2
	MGN	Morning News	Chicago, IL	2'40 x 2
	Freedom 43	Rise & Shine	Oklahoma City, OK	2'40 x 2
	NBC4	Today	Oklahoma City, OK	2'40 x 2
	WITI / FOX6NOW	Wake-Up News	Milwaukee	2'40 x 2
	KSWB / FOX5	Morning News	San Diego	2'40 x 2
	KCPQ / Q13FOX	Q13FOX News This Morning	Seattle	2'40 x 2
	KTXL / FOX40	FOX40 Live	Sacramento	2'40 x 2
	WGNO / ABC26	Morning News	New Orleans	2'40 x 2
	WJW / FOX8	FOX8 News	Cleveland	2'40 x 2

KTLA 5 放映結果: 10月2日(水): CEATEC 2013 : 生中継+レポート① 05:15am, 7:50am, 9:30am(米国西海岸時間)
10月4日(金): CEATEC 2013 : レポート② 05:15am, 7:50am, 9:30am(米国西海岸時間)

*各地、各放送局はKTLA-5の各レポートを時差も含んで、KTLA-5の時間帯に準じ独自に放映(各日:2-3回)を行った。

●米国: NBC National

放送日	放送局	番組名	放映エリア(主要都市)	放映時間
10月4日(金)	NBC	Today Show	全米	1'02

●米国: NBC Sports Network / ケーブルテレビ (MAV TV 及び TUFF TV) (東海岸時間)

放送日	放送局	番組名	放映エリア(主要都市)	放映時間
12月	NBC	"Hard Drive"	(MAV TV, TUFF TV): 3,940万視聴世帯	4'00
12月	MAV TV	"Hard Drive"		4'00
12月	TUFF TV	"Hard Drive"		4'00

車及び車関連の最新電子技術をレポートする高視聴率番組「Hard Drive」。この番組は11月末から始まる13シリーズの特別番組(30分)で、主に、米国では NBC Sports Network(放映週に3回放映)及びケーブルネットワーク MAV TV、TUFF TVを通じて約4000万世帯、カナダではサテライト及びケーブルネットワーク CAVE TVを通じて約300万世帯の視聴世帯に視聴をされている。

●カナダ: CAVE TV ネットワーク (米国: 東海岸時間)

放送日	放送局	番組名	放映エリア(主要都市)	放送時間	放映時間
12月	CAVE TV	"Hard Drive"	CAVE TV: 約300万視聴世帯	07:30 - 14:00 - 23:00 -	4'00

*CAVE TV: カナダのサテライト及びケーブルテレビネットワーク(視聴世帯約300万)。

●米国: Link TV (米国: 東海岸時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
11月末(金)	Link TV	Earth Focus	19:00-19:30	13'00
(月)	サテライト: DirecTV, Dish Network	CEATEC 2013 report-1	10:30-11:00(再)	13'00
(火)	ケーブル局: LA36 (Los Angeles, CA),		00:30-01:00(再)	13'00
(水)	MNN (New York, NY),		13:00-13:30(再)	13'00
(木)	KRCB (Bay Area, CA)		21:00-21:30(再)	13'00
12月(金)	eaTV (San Francisco, CA)	Earth Focus	19:00-19:30	13'00
(月)		CEATEC 2013 report-2	10:30-11:00(再)	13'00
(火)	Website: LinkTV.org		00:30-01:00(再)	13'00
(水)			13:00-13:30(再)	13'00
(木)			21:00-21:30(再)	13'00

Link TV は非商業サテライトテレビネットワーク局で、海外及び国内から多様な観点からのテーマで制作され、基本的にはDirecTV と Dish Networkにおいて米国13,300万以上の世帯に放映されている。更に、このLink TVから選ばれた番組からニューヨーク、ロサンゼルス及びサンフランシスコの220のケーブル局(2,200万視聴世帯以上)にも放映。同時に各番組はwebsiteのLinkTV.org でも視聴できる。

●米国: スペイン語放送局 - MundoFox, NTN24 (東海岸時間)

① MundoFox

放送日	放送局	番組名	放映エリア(主要都市)	放送時間	放映時間
10月9日(水)	MundoFox	"Noticias" (daily newscast)	米国22州メキシコ市:55支局	17:43 -	1'25

MundoFox は米国内のスペイン語によるネットワーク局。この新しいネットワーク局は2012年4月13日Fox国際ニュースチャンネルと南米のコロンビアのRCNテレビ局とのジョイントベンチャーとして創設された。視聴世帯は米国内22州プラスメキシコ市の55支局340万世帯に達し、その各支局のリストは http://en.wikipedia.org/wiki/List_of_MundoFox_affiliates で確認できる。

② NTN24

放送日	放送局	番組名	テレビ局・ネット局	放送時間	放映時間
10月4日(金)	NTN24	Informativo NTN	Satellite: Dish Network, DirecTV Cable: Compact, Cablevision, Verizon,	12:20 -	2'08
	NTN24	Informativo NTN(再)	Time Warner, AT&T, Cox Comm.	18:18 -	2'08
10月11日(金)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia	Charter, Insight, NCTC, Frontier,	22:00 -	2'15
10月12日(土)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia (再)	SureWest, iFiber Comm, Urban Comm	03:00 -	2'15

NTN24 (Nuestra Tele Noticias 24 Horas) は北米・南米地区を中心に放映されるスペイン語による24時間国際ニュースチャンネル。NTN24はスペイン語によりニュース、時事、スポーツ、エンターテインメントのニュース番組で、サテライト及びケーブルにてアラスカからパタゴニアまで視聴できる。また、米国内においてはオンラインの英語ニュース ntn24news.com も制作をしている。NTN24の視聴者数は総数は9,001,772で内訳は米国: 3,436,895、ヨーロッパ(スペイン): 915,000、中央アメリカ地区: 212,170、及び南米地区4,437,707。

●中央アメリカ: NTN24 (米国: 東海岸時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間	視聴世帯数(NTN24)
10月4日(金)	NTN24	Informativo NTN CEATEC2013	12:20 -	2'08	Mexico: 9,779 Caribe: 142,832
	NTN24	Informativo NTN CEATEC2013(再)	18:18 -	2'08	Costa Rica: 21,233 El Salvador: 10,824
10月11日(金)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia	22:00 -	2'15	Honduras: 9,754 Panama: 12,682
10月12日(土)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia (再)	03:00 -	2'15	Guatemala: 5,066

●南アメリカ: NTN24, MundoFox (米国: 東海岸時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間	視聴世帯数(NTN24)
10月4日(金)	NTN24	Informativo NTN	12:20 -	2'08	Argentina: 1,447,483
	NTN24	Informativo NTN	18:18 -	2'08	Colombia: 824,487
10月9日(水)	MundoFox	"Noticias" (daily newscast)	17:43 -	1'25	Chile: 71,203, Ecuador: 218,468
10月11日(金)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia	22:00 -	2'15	Peru: 253,621, Uruguay: 63,196
10月12日(土)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia (再)	03:00 -	2'15	Venezuela: 1,559,250

●ヨーロッパ(フランス): LCI (フランス時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
10月4日(水)	LCI (La Chaîne Info)	Morning News - 幕張からの生中継	07:50	5'00
10月6日(日)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ①	13:10 -	11'06
	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ①(再)	20:10 -	11'06
10月7日(月)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ①(再)	15:40 -	11'06
10月8日(火)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ①(再)	16:10 -	11'06
10月9日(水)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ①(再)	16:40 -	11'06
10月10日(木)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ①(再)	15:40 -	11'06
10月13日(日)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ②	13:10 -	9'44
	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ②(再)	20:10 -	9'44
10月14日(月)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ②(再)	15:40 -	9'44
10月15日(火)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ②(再)	16:10 -	9'44
10月16日(水)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ②(再)	16:40 -	9'44
10月17日(木)	LCI (La Chaîne Info)	Plein Ecran - CEATEC 2013 ②(再)	15:40 -	9'44

LCI (La Chaîne Info) はフランス最大の放送局TF-1の配下のフランスのケーブルニュースチャンネル。24時間ニュースネットワークで視聴者数は720万世帯以上を有し、全フランスおよびフランス語圏内にニュースを提供している。

●ヨーロッパ (英国): BBC (英国時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
10月12日(土)	BBC News Channel	Click - CEATEC 2013	01:30 - 02:00	15'22
	BBC News Channel	Click - CEATEC 2013 (再)	03:30 - 04:00	15'22
	BBC Breakfast	Click - CEATEC 2013 (再)	06:45 - 07:15	15'22
	BBC News Channel	Click - CEATEC 2013 (再)	12:30 - 13:00	15'22
10月13日(日)	BBC News Channel	Click - CEATEC 2013 (再)	04:30 - 05:00	15'22
	BBC Breakfast	Click - CEATEC 2013 (再)	07:45 - 08:15	15'22
	BBC News Channel	Click - CEATEC 2013 (再)	11:30 - 12:00	15'22
	BBC News Channel	Click - CEATEC 2013 (再)	15:30 - 16:00	15'22
	BBC News Channel	Click - CEATEC 2013 (再)	22:45 - 23:15	15'22
10月14日(月)	BBC 2	Click - CEATEC 2013 (再)	10:35 - 11:05	15'22

クリック(Click)は、英国放送協会(BBC)が、BBC2, BBC News で英国国内に向けて、またBBC Worldで世界各地に向けて放送している大変人気の高いIT情報番組である。BBCのWebサイトではビデオ・オン・デマンド方式で番組のダイジェストが無料配信されており、世界中でいつでも番組を視聴できる。

●ヨーロッパ (スペイン): NTN24 (米国:東海岸時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間	視聴世帯数(NTN24)
10月 4日(金)	NTN24	Informativo NTN CEATEC2013	12:20 -	2'08	スペイン: 915,500
	NTN24	Informativo NTN CEATEC2013 (再)	18:18 -	2'08	
10月11日(金)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia	22:00 -	2'15	
10月12日(土)	NTN24	CTS Salud Ciencia et Tecnologia (再)	03:00 -	2'15	

●中近東:BBC Persian TV (英国時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
10月18日(金)	BBC Persian TV	Farsi Click - CEATEC 2013	14:00 - 14:30	13'35
10月19日(土)	BBC Persian TV	Farsi Click - CEATEC 2013	06:00 - 06:30	13'35
10月20日(日)	BBC Persian TV	Farsi Click - CEATEC 2013	16:00 - 16:30	13'35
10月21日(月)	BBC Persian TV	Farsi Click - CEATEC 2013	08:00 - 08:30	13'35
10月22日(火)	BBC Persian TV	Farsi Click - CEATEC 2013	13:00 - 13:30	13'35
10月23日(水)	BBC Persian TV	Farsi Click - CEATEC 2013	08:00 - 08:30	13'35
10月24日(木)	BBC Persian TV	Farsi Click - CEATEC 2013	06:00 - 06:30	13'35

英国BBCの人気番組「Click(クリック)」の姉妹番組、BBCが約1億人と言われる中近東のペルシャ語圏のイラク、アフガニスタン、ウズベキスタン、タジキスタンへの番組としてペルシャ語スタッフを配し、Hotbird、Eutelsat、Telestar 及びEurobirdのサテライトを通じて放送を行っている。

●アジア: CNBC アジア(シンガポール時間), CNBC TV18 (ニューデール時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
10月27日(日)	CNBC Asia (全アジア)	Japan Channel	09:00 - 10:00	12'01
		Japan Channel (再)	18:00 - 19:00	12'01
	CNBC TV18 (インド)	Japan Channel	14:00 - 15:00	12'01

「Channel JAPAN」はアジアに向けた国際放送(英語版)への番組で日本経済新聞、TBSにより制作され、最新の日本の経済、文化、トレンド、技術をCNBCアジア(アジア全域)、CNBC TV18(インド) 及び日経CNBC(日本)を通じて放映される。

●アジア: Phoenix Television (香港時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間
10月17日(木)	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート①)	21:50-22:15	11'15
10月18日(金)	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート①)(再)	03:30-03:55	11'15
	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート①)(再)	09:55-10:20	11'15
	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート②)	21:50-22:15	11'10
10月19日(土)	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート②)(再)	03:30-03:55	11'10
	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート②)(再)	08:00-08:55	11'10
10月24日(木)	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート③)	21:50-22:15	10'10
10月25日(金)	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート③)(再)	03:30-03:55	10'10
	Phoenix Television	Trendy Guide (レポート③)(再)	09:55-10:20	10'10

Phoenix Televisionは香港拠点の標準中国語テレビ放送で、中国本土、香港、台湾、更に他地域の中国語視聴者(カンボジア: Cambodian Central Chinese Television、インドネシア: MetroTV/Da Ai TV Indonesia、マレーシア: ntv7 8TV、シンガポール: Channel 8、Channel U、Channel NewsAsia、タイ: TV5(BBTV)、CH7、Da Ai TV Thailand)。

15年前に創設された番組「Trendy Guide」は Phoenix Satellite Televisionで最も内容の優れ、視聴者に受け入れられた番組の1つ。

更に、長寿番組の1つでもあり、月曜日から金曜日まで毎日放映される「Trendy Guide」は様々なトピック(ファッション、インテリアデザイン、最新テクノロジー、旅行と食事、快適ライフ、更に最新車情報)にフォーカスした番組構成で制作されている。

「Trendy Guide」は最新の技術、トレンド、そしてライフスタイルを発信する Phoenix Chinese Channelを代表する番組。

●アジア (インド): TV Today Network (インド時間)

放送日	放送局	番組名	放送時間	放映時間	視聴世帯数(NTN24)
10月7日(月)	TV Today Network	Headlines Today	13:23 -	1'25	インド全土、5000万人以上の視聴者
		Headlines Today (再)	18:48 -	1'25	

TV Today NetworkはNetwork 18 及び NDTV(ヒンズー語放送)と並びインドを代表するニュースチャンネル(英語〜ヒンズー語)で、約5千万人の視聴者を誇るナンバーワンの24時間ニュースチャンネル。「Headlines Today」は都会に住む若い人々をターゲットに4つのニュース専門チャンネルからなるニュース番組である。

(10)新聞広告

メディア	掲載日
電波新聞	9月25日
オートメレビュー	9月25日
日本経済新聞	9月27日
電波タイムズ	9月30日
映像新聞	9月30日
電波新聞	10月1日
日刊工業新聞本紙	10月1日
通信興業新聞	9月9日、16日、23日、30日

(11)雑誌広告

メディア	掲載日
SOLAR JOURNAL	7月16日
ロボコンマガジン	8月15日
プロダクトナビ	8月29日
日エフォーラム	8月30日
OHM	9月5日
月刊誌「Electronic Journal」	9月15日
電子情報通信学会誌	10月1日
ExpoTODAY	9月28日-10月5日

(12)メールマガジン広告

メディア	掲載日
オートメレビュー メールマガジン	9月18日
Gマガヘッダー広告	9月19日
ExpoTODAY	9月19日
情報化の処方箋号 外板	9月20日
製品ナビ メールマガジン	9月25日
SOLAR JOURNAL メールマガジン	9月25日
映像新聞 メールマガジン	9月26日
イベントセミナー通信	9月27日
日経エレクトロニクスNEWSスペシャルメール	9月17日、24日
BIT通信5行広告	9月19日、26日
日経BP社 技術在線メール ヘッダー広告	9月10日、13日、19日、26日
日経BP社 日経BPターゲットイングメール	9月24日
日経BP社 日経エレクトロニクスNEWSヘッダー広告	9月10日、12日、18日、20日、24日、26日

(13)オンライン広告

メディア	掲載日
オートメレビュー ホームページバナー	9月1日〜10月5日
インコム ホームページバナー	9月1日〜10月5日
電子ジャーナル ホームページバナー	9月1日〜10月5日
電波タイムズ ホームページバナー	9月1日〜10月5日
SOLAR JOURNAL サイトリンクバナー	9月1日〜10月5日
映像新聞 ホームページバナー	9月1日〜10月5日
Tech-On! ウェルカムバナー	9月10日〜10月5日
Tech-On! テーマサイト「電子部品」「デジタルヘルス」スーパーバナー	9月10日〜10月5日
デジタル・ヘルス・オンライン 告知広告/スーパーバナー	9月10日〜10月5日
BITスーパーバナー	9月17日〜10月5日

(14)MAIL MAGAZINE

■CEATEC JAPAN OFFICIAL MAIL MAGAZINE

過去の来場者データベース、および今年の事前登録者に向けて毎週金曜日に「CEATEC JAPAN OFFICIAL MAIL MAGAZINE」を配信。

- ①配信件数:約15万件
- ②配信回数:11回

(15)CEATECニュース

7月19日のVol.001を皮切りにCEATEC JAPANのみどころや出展者情報など、話題性の高い情報をニュースとして配信。
掲載件数 和文:106件 英文:31件

(16)PRツール(印刷物)の作成

- ①招待券・案内状・封筒セット(和・英):出展者・関係団体・メディアに配布
- ②会場案内図:会期中、全来場者に配布

12. CEATEC JAPAN公式 Website



<CEATEC JAPAN 公式Website>

(1)セッション数（月別）

月	セッション数
7月	55,290
8月	73,597
9月	307,788
10月	435,669
計	872,344

※「セッション」とは、サイトにおいて1人の訪問者が一定期間内にクリックを繰り返す一連の動作のことです。
※セッションは、訪問者がサイトを訪れた時に開始し、ブラウザが閉じられたり一定時間反応がないと終了します。

(2)サイトにアクセスしたユーザの言語設定（上位5位までを表記）

言語	割合
日本語	92.07%
英語	4.94%
中国語	1.53%
韓国語	0.60%
フランス語	0.19%

※2013年10月31日現在

(3)アクセス元（国・地域別/上位20位までを表記）

順位	アクセス元	割合	順位	アクセス元	割合
1	日本	94.40%	11	フランス	0.13%
2	アメリカ	1.15%	12	タイ	0.09%
3	中国	0.91%	13	カナダ	0.08%
4	台湾	0.62%	14	ロシア	0.07%
5	韓国	0.58%	15	マレーシア	0.06%
6	香港	0.21%	16	オーストラリア	0.05%
7	インド	0.18%	17	フィリピン	0.05%
8	イギリス	0.17%	18	ブラジル	0.04%
9	シンガポール	0.15%	19	ベトナム	0.04%
10	ドイツ	0.14%	20	イタリア	0.03%

(4)公式サイトの中の人気のあるページ

（各ページのアクセス数ランキング）

■日本語

順位	ページ名	ページビュー
1	来場事前登録手順	246,091
2	出展者一覧	112,935
3	入場方法について	94,963
4	開催テーマ/開催概要	66,215
5	出展者検索	64,405
6	会場マップ	57,366
7	交通アクセス	50,909
8	コンファレンスカレンダー	48,761
9	ライブ&ソサエティ ステージ	48,013
10	開催概要	47,113

■英語

順位	ページ名	ページビュー
1	Search by Exhibitor	2,089
2	Exhibition Topics	1,795
3	Exhibitor Directory	1,572
4	Admission	1,559
5	Key Technologies Stage	1,548
6	Exhibition Theme	1,462
7	Search by Exhibitor	1,454
8	Lifestyle & Society Stage	1,422
9	Search by Product	1,413
10	Innovation Awards 2013 Winners	1,361

(5)CEATEC JAPAN 2013特集サイトリンク集

出展者が独自に作成したCEATEC JAPAN 2013の特集サイトを募集。公式Websiteよりリンクすることで、効果的な情報発信を促進し、相乗効果を生み出した。

掲載リンク集: 19件

リンク集からのアクセス総数: 6,648件

※2013年10月31日現在



(6)ソーシャルネットワーク対応

CEATEC JAPAN 2013では、引き続きTwitter公式アカウント・CEATEC JAPAN公式Facebookページを運用。公式Websiteと連携して事前の展示会情報を案内したり、リアルタイムで会場の様子を発信するなど効果的な情報配信を行った。

■Twitter

Twitterでは、会期前からCEATECニュース・展示情報を中心とした公式Website更新情報の発信、事前登録利用促進やイベント情報の案内などを実施。フォロワーへの返信を積極的に行い、ユーザーとコミュニケーションを取ることで、ユーザーサポート的な側面も持ち合わせた交流チャネルとして活用した。また、会期中は会場内の様子や出展ブース紹介等をリアルタイムに発信した。

フォロワー数(最大): 2,603

関連つぶやき件数*: 50,020件

(2013年9月1日~10月31日)

※検索条件: つぶやき内容に「CEATEC」「シーテック」が含まれているもの



<CEATEC JAPAN 公式アカウント>

■Facebook

Facebookでは、会期前からCEATECニュース・展示情報を中心とした公式Website更新情報の発信、事前登録利用促進やイベント情報の案内などを実施。定期的に記事を投稿することで、いいね! 数を大幅に増加させた。

会期中は写真やリンクを効果的に活用し会場内の様子を効果的に発信。その他、Twitter公式アカウントとも連携して出展ブース紹介等を実施し、来場予定のユーザーへ積極的に情報発信を行った。

「いいね!」数: 4,837件

(2013年10月31日現在)

Facebookページから公式サイトへのアクセス数: 6,863

(2013年7月~10月)



<CEATEC JAPAN公式Facebookページ>

最先端IT・エレクトロニクス総合展

CEATEC[®] JAPAN



CEATEC JAPAN 運営事務局（一般社団法人日本エレクトロニクスショー協会）
〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル
電話：(03)6212-5233 FAX：(03)6212-5226

www.ceatec.com